

東部土木事務所登米地域事務所

令和元年度 復旧・復興カレンダー

5月7日～13日 河川・ダム管理施設操作研修会



出水期を迎えるにあたり、事務所全職員を対象として、長沼ダムや荒川等の河川・ダム管理施設の操作研修を実施し、洪水時に迅速かつ確実に施設の操作ができるよう確認を行いました。

6月18日 吉田橋耐震補強工事完了



(一)東和登米線「吉田橋」の耐震補強工事が完了しました。登米管内では、震災以降、緊急輸送道路等における8橋の橋梁耐震化を進めており、令和元年度末時点で吉田橋を含めて6橋が完了しました。

8月8日 ロードクリーンキャンペーン



8月の「道路ふれあい月間」にあわせ、事務所職員18名により、国道346号「道の駅・米山」前と(主)古川佐沼線「道の駅・みなみかた」前の道路の除草や清掃を行いました。

9月22日 迫川フェスティバル'19



第30回長沼レガッタ大会にあわせ、レガッタ会場の長沼フットピア公園にて長沼ダムの役割を紹介するパネル展示やクイズ大会等を行い、子供たちから親御様まで、長沼ダムへの関心を深めていただきました。

10月25日 スマイルサポーター表彰式



スマイルサポーターとして、登米管内の県管理道路や河川の美化活動を積極的に継続し、長年にわたりご尽力いただいた4団体に対して、知事感謝状を贈呈いたしました。

11月13日 河川クリーンキャンペーン



河川への不法投棄を防止し河川愛護を推進するため、建設業協会登米支部と当事務所では、毎年、迫川の一齐清掃活動を行っています。当日は、総勢112人が参加し全体で990kgのごみ等を回収しました。

1月31日 みやぎ県北高速幹線道路「紫雲山大橋」完成



復興支援道路として整備を行っているみやぎ県北高速幹線道路事業(第三期:佐沼工区3.6km)において、迫川を渡河する紫雲山大橋の橋梁上部工事が完成しました。

3月7日 国道346号「錦織バイパス」開通

平成18年度より事業を行ってきた国道346号「錦織バイパス」延長約2kmが3月7日に開通しました。開通当日は、当事務所主催により「開通の感謝を伝える会」を開催し、関係者による開通行事が行われました。バイパスの開通により、屈曲箇所が多い現道からバイパスへの交通転換や、安全な歩行空間の確保、災害時の緊急輸送道路機能の確保が図られます。



6月18日 土砂災害危険箇所パトロール

6月の「土砂災害防止月間」にあわせ、登米市と砂防ボランティアのご協力をいただき、管内の土砂災害危険箇所のうち、12箇所についてパトロールを行いました。



7月9日 令和元年度「第2回登米塾現場研修会」開催

事務所職員の技術力・行政対応力の強化等を目的に、職場内研修「登米塾現場研修会」を行いました。今年度は道路・橋梁・河川等様々な工事現場で、延べ4回(7現場)開催しました。



7月31日 親子現場見学会

県と建設業協会との共催で、小学生と保護者を対象とした「親子現場見学会」を開催しました。登米地域では「みやぎ県北高速幹線道路(佐沼工区)」を会場として25組58名の皆様に参加をいただきました。



当日は、道路の区画線設置や鉄筋組立の体験などの様々な体験を通して、建設業への理解を深めていただきました。

10月13日～31日 台風19号被災箇所の応急復旧

10月12日から13日にかけて本県を通過した台風19号により、登米管内でも県管理道路10箇所、河川等55箇所の被害を受けました。堤防が決壊した石貝川など緊急を要する箇所は、被災後直ちに応急復旧を行いました。



11月12～12月27日 台風19号に伴う災害査定

台風19号で被災を受けた県管理道路や河川等の本格復旧を行うため、11月12日から始まった国の第一次災害査定及び12月の第二次、第四次災害査定を受けました。



11月22日 水戸辺川河川外災害復旧工事完了

当事務所が気仙沼土木事務所管内の震災業務支援として事業の管理監督を行っている、南三陸町戸倉地区の水戸辺川災害復旧工事(その1工区)が完成しました。



12月13日 下羽沢災害防除工事完了

道路防災点検の結果等に基づき、道路斜面の災害防除工事を行っています。登米管内計画11箇所のうち、3箇所目となる(一)志津川登米線の下羽沢工区が完成しました。



1月17日 南沢川流域の減災対策協議会幹事会

台風19号により大きな被害を受けた南沢川流域の防災・減災の取り組みを検討するため、国・県・市で構成されている「北上川下流等大規模氾濫時の減災対策協議会[南沢川流域]」の第1回幹事会が登米合同庁舎にて開催されました。



(1) 事務所の動き

新しい時代のスタートとなり、そして「宮城県震災復興計画」の発展期 2 年目となる令和元年度は、事務所の重点事業であり登米地域の今後の発展を支える「みやぎ県北高速幹線道路事業」等の復興事業を推進するとともに、事務所の重点的取組みとして3つの方針『①適切な事業執行と懸案事項への迅速かつ的確な体制構築、②災害や多様化する県民ニーズへの的確な対応を図るための行政能力及び技術力向上、③震災以降の登米地域における社会資本整備の準備推進』を掲げ、事務所全職員がこれらの方針に基づく目標達成に向けて関連する取組みを行った。

東日本大震災からの復興に向けたリーディングプロジェクトであり、復興支援道路に位置づけられている「みやぎ県北高速幹線道路」は、平成30年12月に第Ⅱ期・中田工区が開通し、令和元年度は第Ⅲ期・佐沼工区の事業推進を図った。

総合的防災力の強化として進めている河川関係事業については、長沼川等において河川改修事業を推進するとともに、国土強靱化対策として迫川等の支障木伐採や堆積土砂撤去を集中的に行った。また、日頃から長沼ダムや多岐にわたる各種河川等管理施設の適切な維持管理と操作研修等による職員の防災能力向上に努めたことにより、県内に甚大な被害をもたらした台風19号の襲来時においても、適切に各施設の操作を行うことができた。

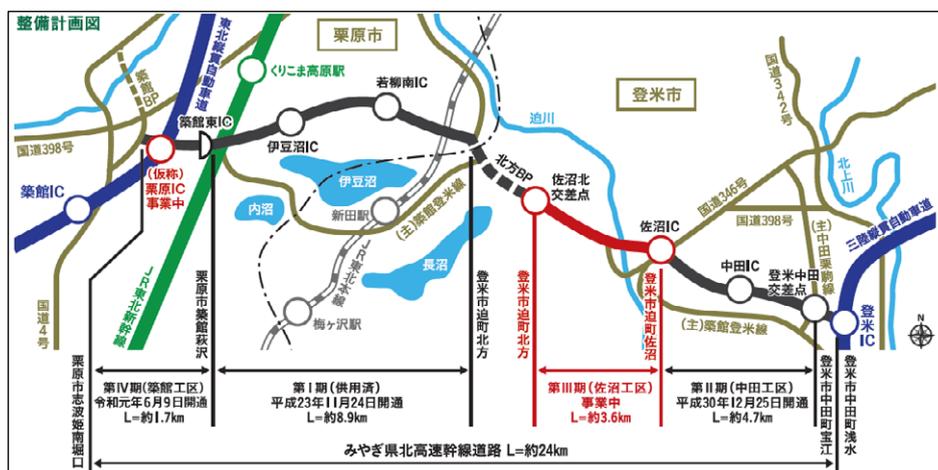
通常事業では、平成18年度から事業を進めてきた、(国)346号「錦織バイパス」を3月7日に開通させることができ、地域の利便性・安全性や災害時の緊急輸送道路機能の向上を図ることができた。

(2) 復興事業

① みやぎ県北高速幹線道路整備事業

みやぎ県北高速幹線道路は、東北縦貫自動車道路と三陸縦貫自動車道を結び、県北地域の広域連携を強化する地域高規格道路であり、被災地の復興支援や災害時における救援物資輸送等を担う復興支援道路として整備を進めている。

全体延長約24kmのうち、当事務所は、第Ⅱ期・中田工区4.7kmと第Ⅲ期・佐沼工



区 3.6km を所管しており、Ⅱ期・中田工区は平成 30 年 12 月に開通した。

第Ⅲ期・佐沼工区については、令和元年度、用地確保と工事の進捗を図り、用地については関係地権者様の協力を頂き、佐沼工区全体の用地確保に目処をつけた。

工事については、事業用地が未取得となっている一部区間を除き着手となり、迫川を渡河する「紫雲山大橋」や「田ノ尻橋」が完成したことから、橋名板の文字を地元小学校の児童に書いていただくなど、事業を着実に進捗させた。



佐沼工区「紫雲山大橋」施工状況（令和元年 9 月）



橋名板へ文字を書いて頂いた児童のみなさん

② 橋梁耐震化事業

登米管内では震災以降、「橋梁耐震化計画」に基づき、8 橋の橋梁耐震化事業を復興事業として進めており、令和元年度は、(一)東和登米線の「吉田橋」、(主)涌谷津山線の「柳津大橋」の 2 橋が完了した。施工中の豊里大橋橋梁耐震補強外工事については、平成 31 年 1 月から片側交互通行規制により、既設桁の撤去及び新しい橋桁の架設作業を進め、事業を進捗させた。

事業全体では合計 6 橋が完了となり、残る (主)河南米山線「豊里大橋」及び(国)398 号「飯土井大橋」の早期完成を目指し事業を推進する。



豊里大橋橋梁耐震補強外工事施工状況（令和 2 年 2 月）

③ 災害防除事業（道路法面对策）

平成 25 年度の道路防災点検結果に基づき、要対策となっている箇所と近年落石の発生した箇所について、道路法面の災害防除工事 8 箇所を復興事業として進めており、令和元年度は、5 箇所目となる(一)志津川登米線の「下羽沢工区」が完了した。

残る 3 箇所、(一)東和薄衣線「丸森工区」、(一)馬籠東和線「大綱木工区」及び「馬の足工区」の令和 2 年度完成を目指し事業を推進する。

（3）通常事業

① 道路事業

平成 18 年度より進めてきた(国)346 号錦織道路改良事業「錦織バイパス」約 2km

について、令和2年3月7日に供用を開始した。当バイパス区間の現道は、錦織市街地の人家連担部において幅員が狭小であるとともに、屈曲箇所が多く、大型車同士のすれ違いが困難な状態にあったため、当バイパスの供用により、通過交通の転換と歩行空間の安全確保が図られ、住民生活の快適性の向上と災害時の緊急輸送路としての機能が確保された。

交通安全施設整備事業については、(国)398号・西館工区で用地買収と工事発注手続きを進め、(主)河南米山線・鈴根工区では用地買収を進めた。(主)古川佐沼線・板倉工区では、部分供用により事業効果が図られるよう工事の進捗を図った。



(国)346号「錦織バイパス」開通（令和2年3月）

② 河川等事業

長沼川河川改修事業については、旧迫町中心市街地の浸水被害を防止するため、新たな放水路及び調整池の整備を進めており、令和元年度は大網排水路付替工事の進捗を図るとともに、護岸工事に本格着手した。なお、当事業は、令和元年度より大規模特定河川事業に格上げとなり、今後集中的に整備が図られることとなった。

南沢川河川改修事業については、当事業区間を含む地域が台風19号により大きな被害を受けたことから、「南沢川流域地区」として、国の「北上川下流等大規模氾濫時の減災対策協議会・幹事会」で今後の対策等が検討されることとなり、被災箇所の災害復旧を迅速に進めるとともに、改修事業の推進が図られることとなった。

国の「防災・減災、国土強靱化のための3ヶ年緊急対策」では、迫川、荒川、夏川及び羽沢川で支障木の伐採を行うとともに、黄牛川の堆積土砂撤去を行った。

河川管理施設の維持管理については、平成8年3月に策定した「河川管理施設長寿命化計画」に基づき、管内18施設の補修を計画的に行っていくこととしており、令和元年度は、南谷地流出樋門の補修工事を完了させた。

砂防関係事業では、砂防緊急改築事業で進めていた鍋割堰堤改築工事を完了させるとともに、土砂災害防止法に基づく土砂災害警戒区域等の指定については、令和元年度で全684箇所の区域指定を完了させ、基礎調査2巡目の手続きに着手した。



鍋割堰堤改築工事完成（令和元年6月）

③ 台風19号に伴う災害復旧対応

10月12日から13日にかけて本県を通過した台風第19号の影響で、当管内においても、米山で時間最大50.5mm、総雨量約240mmの大雨となり、当事務所が管理する道路で12路線14箇所の通行規制を行ったほか、道路・河川等55箇所で被害を受

けた。緊急を要する箇所については、被災後迅速に応急復旧を行うとともに、被害を受けた箇所の本格復旧のため、11月12日から12月27日にかけて合計38件(道路4件、河川28件、砂防5件、ダム1件)の災害査定を受け、設計が完了した33件の復旧工事を年度内に発注した。



台風19号による石貝川の堤防決壊被害

(4) 9年目の課題

① 復旧・復興事業の推進

令和2年度は本県震災復興計画の最終年度となることから、復旧・復興事業の総仕上げが必要となる。当事務所の重点事業である「みやぎ県北高速幹線道路事業」については、懸案だった佐沼工区の用地確保に目処がついたため、今後は工事委託先の宮城県道路公社と連携して工事の進捗管理を徹底し、早期事業完了を目指す。

豊里大橋橋梁耐震補強工事については、交通規制により工事を進めていることから、地元利用者の利便性及び物流や緊急輸送道路等としての機能向上を一日でも早く図るため、施工業者と工程短縮等の検討を密に行い、早期事業完了を目指す。

当事務所では、気仙沼土木事務所管内の震災業務支援として、南三陸町戸倉の水戸辺川災害復旧工事の管理・監督を行っている。令和2年度の確実な完了を目指し、残区間を2工区に分けて進めており、今後も関係機関との工程調整会議を定期的実施するなど工事の進行管理を徹底していく。

② 復興期間以降の登米管内における社会資本整備計画策定

震災復興期間以降の登米地域のあり方を検討するため、平成30年度に県と登米市の中堅職員で構成する「登米地域事業検討ワーキング」を設置し、登米地域の社会資本整備に関する基本方針を中間報告としてまとめた。今後策定される次期宮城県総合計画や社会資本・再生復興計画等との整合を図りながら、復興期間以降の具体事業・取組について検討を行い、登米地域の課題解決に資するアクションプランを作成していく。

③ 防災対応力及び行政・技術能力の向上

台風19号の通過により、登米管内でも大きな被害を受けた。当管内において台風・豪雨等で大きな被害を受けたのは、平成27年の関東・東北豪雨以来であったこともあり、管内の複雑多岐にわたる河川管理施設の適切な操作や被害箇所の災害復旧業務対応等には、事務・技術職員に問わず防災対応力と行政・技術能力が求められることを実感した。そのため、若手職員が多い当事務所では、災害時対応に限らず、平日頃から研修や訓練を定期的開催し、必要な能力の向上を図っていく必要がある。

道路施設の再生・復興状況の写真



国土地理院の電子地形図に位置を追記して掲載

完成



① みやぎ県北高速幹線道路Ⅱ期 (中田工区)
登米中田交差点 完成 (平成30年12月)

完成



② みやぎ県北高速幹線道路Ⅱ期 (中田工区)
中田IC～登米中田交差点 完成 (平成30年12月)

完成



③ みやぎ県北高速幹線道路Ⅱ期 (中田工区)
中田IC 完成 (平成30年12月)

一部完成



④ みやぎ県北高速幹線道路Ⅱ期 (中田工区)
佐沼IC 完成 (平成30年12月)

施工中



⑤ みやぎ県北高速幹線道路Ⅲ期（佐沼工区）
平成30年8月撮影

施工中



⑤ 令和2年3月 現在
施工中

施工中



⑥ みやぎ県北高速幹線道路Ⅲ期（佐沼工区）
平成30年11月撮影 紫雲山大橋

施工中



⑥ 令和2年3月 現在
施工中

施工中



⑦ みやぎ県北高速幹線道路Ⅲ期（佐沼工区）
平成29年2月撮影 起点部

施工中



⑦ 令和2年3月 現在
施工中

着工前



⑧ 登米市東和町錦織地内
(国) 346号 錦織道路改良工事(その1)

完成



⑧ 令和2年3月 現在
完成 3月7日供用開始

着工前



⑧ 登米市東和町錦織地内
(国) 346号 錦織道路改良工事(その2)

完成



⑧ 令和2年3月 現在
完成 3月7日供用開始

着工前



⑨ 登米市登米町寺池三日町地内
(主) 築館登米線外 寺池道路改良工事

完成



⑨ 令和2年1月 現在
完成

着工前



⑩ 登米市南方町後屋敷待井地内
 (主) 古川佐沼線 板倉自歩道設置工事

工事中



⑩ 令和2年3月現在
 舗装工 施工中

着工前



⑪ 登米市登米町大字日根牛地内
 (一) 志津川登米線 下羽沢災害防除工事

完成



⑪ 令和元年12月 現在
 完成

着工前



⑫ 登米市津山町柳津地内
 (主) 涌谷津山線 柳津大橋橋梁耐震補強工事

完成



⑫ 令和元年12月 現在
 完成

河川・海岸保全施設の再生・復興状況の写真



国土地理院の電子地形図に位置を追記して掲載



着工前



③ 登米市東和町錦織字畑ノ沢地内
鍋割堰堤改築工事

完成



③ 令和元年6月 現在
完成

着工前



④ 栗原市若柳町南谷地 地内
南谷地流出樋門扉改良工事

完成



④ 令和元年9月 現在
完成

着工前



⑤ 登米市南方町沼崎 地内
蕪栗沼遊水地沼崎排水機場ポンプ改良工事

完成



⑤ 令和元年11月 現在
完成

3.11  

3.11
伝承・減災
プロジェクト

令和元年度 復旧・復興カレンダー

4月7日 気仙沼大島大橋の供用開始

宮城県が「復興のシンボル」として整備を進めてまいりました「気仙沼大島大橋」については、4月7日に供用を開始しました。当日の午前11時から磯草地区(大島側)で開通式典を行い、午後3時から気仙沼大島大橋の供用を開始しました。今回の開通により、本土と大島が陸路でつながりました。大島地区住民の日常生活における利便性の向上や救急医療活動への支援、観光交流や産業の活性化などが期待されます。



6月30日 只越橋の供用開始

気仙沼市唐桑中心部と国道45号を結ぶ一般県道馬場只越線の只越橋が6月30日より供用しました。この供用により、唐桑地区の復興はもとより、水産業や観光振興に大きく寄与することが期待されます。



7月20日 小泉海水浴場が再開

防潮堤工事と駐車場等の完成により、震災以降閉鎖していた中島地区海岸にある小泉海水浴場が7月20日に9年ぶりに再開しました。



12月26日 (一)大島浪板線の一部を供用開始



浪板橋から浪板2区防災集団移転団地入り口までの600mの区間については、のり面にひび割れが見つかり、地盤が弱いことも確認され、この区間だけ供用が延びていました。その後、夏から追加の強化工事が完了し、12月26日に供用を開始しました。

3月5日 杉ノ下地区海岸養浜工事了



東日本大震災により消滅してしまった砂浜を再生させるため、養浜砂を投入する工事が令和2年3月5日に完了しました。海水浴場のオープン予定である、令和2年7月まで自然の波の力で砂浜が形成されていきます。

5月16日 (一)清水浜志津川港線の供用開始



平磯・荒砥・袖浜防集団地と志津川地区を接続する復興道路として(一)清水浜志津川港線荒砥地区の整備を行い、5月16日に全線供用を開始しました。

6月28日 国道398号「志津川復興道路」の供用開始

東日本大震災で壊滅的な被害を受けた志津川地区のまちづくりと連携し、復興道路として国道398号の整備を行い、6月28日に全線供用を開始しました。これにより、志津川市街地へのアクセスが向上しました。



7月16日 桜川河川災害復旧工事了



東日本大震災で被災した桜川の災害復旧事業として、河川と県道・町道の整備を一体的に行いました。河川堤防は1津波対応の堤防となっており、7月16日に工事が完成し、7月31日に県道の交通開放を行いました。

8月4日 神山川橋の仮橋へ交通切替

神山川河川災害復旧事業に関連し、主要地方道気仙沼唐桑線の神山川橋の架替工事に伴い、8月4日から仮橋の迂回路に交通切替を行いました。



8月6日 ドーロ・クリーン大作戦を実施



毎年8月の「道路ふれあい月間」の一環として、管理道路の環境美化及び不法投棄の防止の啓発を目的とし、宮城県建設業協会気仙沼支部と共催で「ドーロ・クリーン大作戦」を実施しました。

9月17日 二級河川津谷川 第3回環境学習

小泉小学校3～4年の児童を対象に、今年度も3回(6月・7月・9月)津谷川周辺で野外活動を行い、捕獲したチヨウの観察を実施しました。



1月17日 気仙沼港臨港道路災害復旧工事了



東日本大震災で被災した、気仙沼港背後の臨港道路の復旧工事が完了しました。これにより、気仙沼港における東日本大震災の全ての復旧工事が完了となりました。

(1) 事務所の動き

令和元年度の気仙沼土木事務所は、総数 104 名(震災前の約 2 倍)の組織で、東日本大震災からの復旧・復興事業や通常事業、各種法令に基づく行政手続きや施設管理などを行っており、道路及び河川・海岸に加え気仙沼港や御崎港の港湾も含めた復旧・復興事業と払川ダムや砂防施設等を含む管理を行っている。

今年度は、「宮城県震災復興計画」の期間が残り2年となるなかで、防潮堤や河川堤防等の復旧事業については、粘り強い県土構造への転換を図るため、外部委託を最大限活用するとともに進行管理を徹底することで早期完成を目指し取り組んできた。また、大島架橋や大谷地区海岸などの復興事業については、市・町と密に連携を図りながら着実に事業を推進し、かつてない賑わいや活力に満ちた交流基盤の整備を行っている。

令和元年度の当初予算は、繰り越しを含め約 620 億円の事業費で、多くの復旧・復興事業を進めている。このうち、震災関連として必要とする用地取得が約 4,260 筆であるが、前年度までに 9 割以上を取得しており、現在も継続して取得している。工事では、災害復旧事業が 14 箇所ですべて完了し約 83%の完了進捗となり、23 箇所ある復興事業では 6 事業が完了するなど、各工事を推進してきた。

(2) 災害復旧事業

当事務所管内の公共土木施設災害復旧事業は、187 箇所の全てについて着手しており、今年度完了 14 箇所を含む 156 箇所(約 83%)が完了した。

【復旧】

◎箇所数ベース

(単位：箇所)

	全体	事業中		着手率	完了率
			うち完了		
道路・橋梁	123	123	115	100.0%	93.5%
河川・海岸	53	53	30	100.0%	56.6%
港湾	11	11	11	100.0%	100.0%
合計	187	187	156	100.0%	83.4%

◎事業費ベース

(単位：億円)

	全体	事業中		着手率	完了率
			うち完了		
道路・橋梁	139.3	134.2	124.9	96.3%	89.7%
河川・海岸	2,278.2	2,110.7	1,843.0	92.6%	80.9%
港湾	90.2	90.2	90.2	100.0%	100.0%
合計	2,507.7	2,335.1	2,058.1	93.1%	82.1%

※事業費は、現時点での事業費としている

このうち、道路・橋梁施設については全 123 箇所のうち、今年度完了した 8 箇所を含む 115 箇所(約 94%)が完了し、河川・海岸施設についても全 53 箇所のうち、今年度完了した 5 箇所を含む 37 箇所(約 57%)が完了した。港湾施設においては今年度に 11 箇所の全てが完了となった。また、金額ベースでは、全体事業費 2,508 億円に対して、着手済みが約 2,335 億円(約 93%)となっている。



桜川 完成

(令和元年 7 月 16 日完成)



只越川・只越橋 完成

(令和 2 年 1 月 21 日完成)



折立橋(完成)・折立川(施工中)

(令和 2 年 3 月 24 日完成)



気仙沼港臨港道路 完成

(令和 2 年 1 月 17 日完成)

(3) 復興事業

当事務所の復興事業は、東日本大震災復興交付金で 9 事業、地方道補助地域連携1事業及び社会資本整備総合交付金(復興枠)13 事業となっている。

このうち、気仙沼大島と国道 45 号を結ぶ大島架橋事業が三陸縦貫自動車道大島IC(仮称)を境に 2 事業で実施している他、南三陸町内の国道 398 号で 3 事業、その他の県道で 10 事業、河川 3 事業、海岸 3 事業、港湾 2 事業で整備を進めている。

大島架橋事業については、平成 31 年 4 月 7 日において、気仙沼大島大橋を含む約 5.5kmの区間を供用し、その後本土側の浪板工区約 0.6kmの区間を令和元年 12 月 26 日に供用を開始した。今後は、令和 2 年度の全区間供用に向け、工事を推進していく。

また、復興交付金事業では、まちづくりと連携して進めてきた国道 398 号志津川復興道路、志津川登米線塩入復興道路、泊崎半島線泊崎復興道路、清水浜志津川港線清水浜荒砥復興道路等の道路事業や気仙沼港の港湾事業が完了した。海岸事業では、大谷地区海岸において工事が本格化しており、今後も他事業との調整を進めながら工事を推進していく。

【復興】

◎箇所数ベース

(単位：箇所)

	全体	事業中		着手率	完了率
			うち完了		
道路・橋梁	15	15	8	100.0%	53.3%
河川・海岸	6	6	2	100.0%	33.3%
港湾	2	2	2	100.0%	100.0%
合計	23	23	12	100.0%	52.2%

◎事業費ベース

(単位：億円)

	全体	事業中		着手率	完了率
			うち完了		
道路・橋梁	429.3	404.5	375.6	94.2%	87.5%
河川・海岸	150.1	110.9	81.5	73.9%	54.3%
港湾	11.6	11.6	11.6	100.0%	100.0%
合計	591.0	527.0	468.7	89.2%	79.3%

※事業費は、現時点での事業費としている



気仙沼大島大橋 開通式

(平成 31 年 4 月 7 日供用開始)



国道 398 号志津川復興道路 完了

(令和元年 6 月 28 日供用開始)

(4) 9年目の課題

・ 人員不足

当事務所では、自治法派遣による 11 名の職員に応援をいただき、震災復旧・復興を進めているが、現在は、用地隘路や事業調整による用地取得対応、工事における他事業調整やそれに伴う査定決定額の重要変更や工事変更など様々な対応が必要となっており、各事業完了に向けての業務対応も含め、継続的な人員不足への対策が必要である。

・ 建設工事等の入札不調

当事務所の入札では、建設工事の一般競争入札における不調件数が、ここ数年増加しており、平成 30 年度は 27 件、令和元年度は 18 件で発生しており、事業進捗を図る上で支障となっている。地理的条件や建設業界の技術者不足も要因の一つと考え、発注ロットや発注時期などを検討して継続的な対応が必要である。

・ 用地取得の推進

震災復旧・復興の用地取得にあたっては、多くの業務が必要であることから、自治法派遣による職員の応援をいただきながら進めており、令和元年度は、全国から 5 名の応援をいただき、用地取得難航者への対応や未相続地の解決など多様な用地業務を進めてきた。復旧・復興の用地取得は、平成 26 年度をピークに減少傾向となっているものの用地隘路や事業調整などが必要なものが多く、応援職員と連携し、綿密な進行管理を行いながら、計画的に進めている。



・ 工事の促進と進行管理

震災復旧・復興の工事では、他事業との工事調整や工事内容の検討、それに伴う工事契約変更、さらには、査定決定額からの重要変更手続きなど、一人あたりの負担が膨大となっており、全国から 6 名の応援に加えて、監督支援業務なども活用し、所内での進行管理を始めとした懸案事項などの情報共有や問題解決を進め、工事の推進を図ることができた。

今後は、工事精算変更や補償工事物件の引き渡しなども増えることから、着実に一つ一つを解決し進めていくために進行管理の徹底が必要である。

・ 予算管理

工事の促進における進行管理では、予算管理も重要であり、特に繰越予算の支出や工事進捗に伴う請負者への支出時期、金額を適正に把握し、各工事ごとの予算管理を徹底する必要がある。

・ 施設管理

当事務所管内では、震災からの復興のため、多くの事業が進められているが、地形的条件から限られた道路に工事車両が集中している。

このため、県管理道路の適正な維持管理が求められており、職員直営によるパトロールの強化やドーロクリーンとして企画した直営道路清掃などのソフト対策とともに計画的な施設更新を行うことが必要である。

(5) おわりに

震災から 9 年がたち、それぞれの復旧・復興事業で完了時期が見えてきたが、未着手な箇所もあることから、ゴールを見据えた事業促進を自治法派遣職員とともに事務所一丸となって進めていく。

また、震災復興のシンボルである「大島架橋事業」を着実に進め、進捗状況を発信していくとともに、関係機関と連携し、気仙沼市と南三陸町の震災復興の一躍を担う多くの復旧・復興事業を着実に進めていく。

道路施設の再生・復興状況の写真



国土地理院の電子地形図に位置を追記して掲載

着工前



① (一) 大島浪板線 気仙沼市小々汐地内
災害復旧事業／路面災／小々汐

施工中



① 令和2年3月
施工中

着工前



② (一) 大島浪板線 気仙沼市田中浜地内
災害復旧事業／道路災／田中浜

施工中



② 令和2年3月
施工中

着工前



③ (一) 大島浪板線 気仙沼市小田の浜地内
災害復旧事業／道路災／小田の浜

施工中



③ 令和2年3月
施工中

着工前



④ (主) 気仙沼唐桑線 気仙沼市松崎方浜地内
災害復旧事業／道路災・橋梁災／松崎方浜・面瀬橋

施工中



④ 令和2年3月
施工中

着工前



⑤ (主) 気仙沼唐桑線 気仙沼市神山地内外
災害復旧事業／河川災／神山川橋

施工中



⑤ 令和2年3月
仮橋完了, 旧橋撤去施工中

道路施設の再生・復興状況の写真



国土地理院の電子地形図に位置を追記して掲載

着工前



① 国道398号 南三陸町志津川字御前下地内
志津川復興道路事業

完成



① 令和元年6月
全線供用開始

着工前



② 志津川登米線 南三陸町志津川字塩入地内
塩入復興道路事業

完成



② 令和元年12月
全線供用開始

着工前



③ 清水浜志津川港線 南三陸町志津川字平磯地内
清水浜荒砥道路復興事業

完成



③ 令和元年5月
完成

着工前



④ 泊崎半島線 南三陸町歌津字管の浜地内
管の浜道路災害復旧事業

完成



④ 令和元年5月
完成

着工前



⑤ 国道398号 南三陸町戸倉字川向地内
折立橋災害復旧事業

完成



⑤ 令和2年3月
完成

着工前



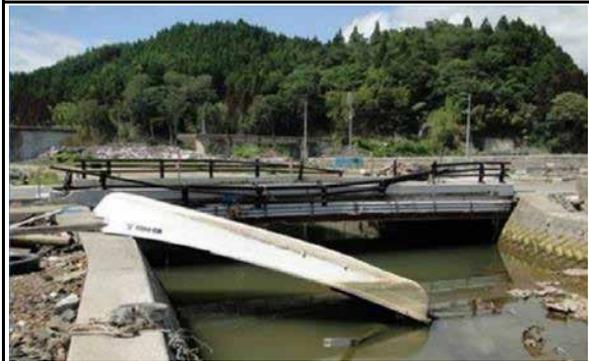
⑥ 国道398号 南三陸町戸倉字長清水地内
長清水橋災害復旧事業

完成



⑥ 令和2年3月
供用開始

着工前



⑦ 清水浜志津川港線 南三陸町志津川字清水浜地内
清水橋災害復旧事業

完成



⑦ 令和元年7月
完 成

道路施設の再生・復興状況の写真



国土地理院の電子地形図に位置を追記して掲載

着工前



① (国) 284号 猿岩橋 気仙沼市切通地内
着工前

施工中



① 令和2年3月
施工中

着工前



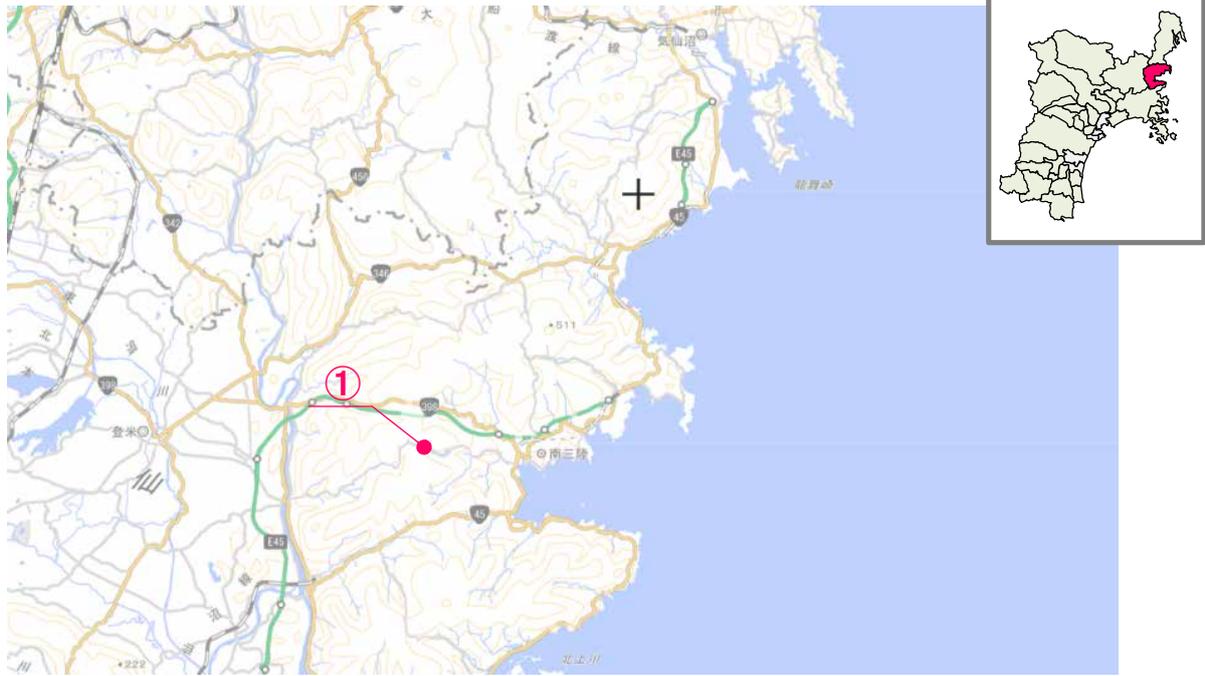
② (国) 284号 山びこ大橋 気仙沼市下八瀬地内
着工前

施工中



② 令和2年3月
施工中

道路施設の再生・復興状況の写真



国土地理院の電子地形図に位置を追記して掲載

着工前



① (主) 志津川登米線 南三陸町入谷地内
着工前

完成



① 令和2年3月
完成

道路施設の再生・復興状況の写真



国土地理院の電子地形図に位置を追記して掲載

着工前



① (一) 大島浪板線 気仙沼市浪板地内
浪板橋付近

完成



① 令和元年12月26日
供用開始

着工前



② (一) 大島浪板線 気仙沼市磯草地内
磯草巡回場展望台

完成



② 令和元年10月3日
供用開始

着工前



③ (一) 大島浪板線 気仙沼市磯草地内
磯草道路改良工事 (その2)

施工中



③ 令和2年1月16日
施工中

着工前



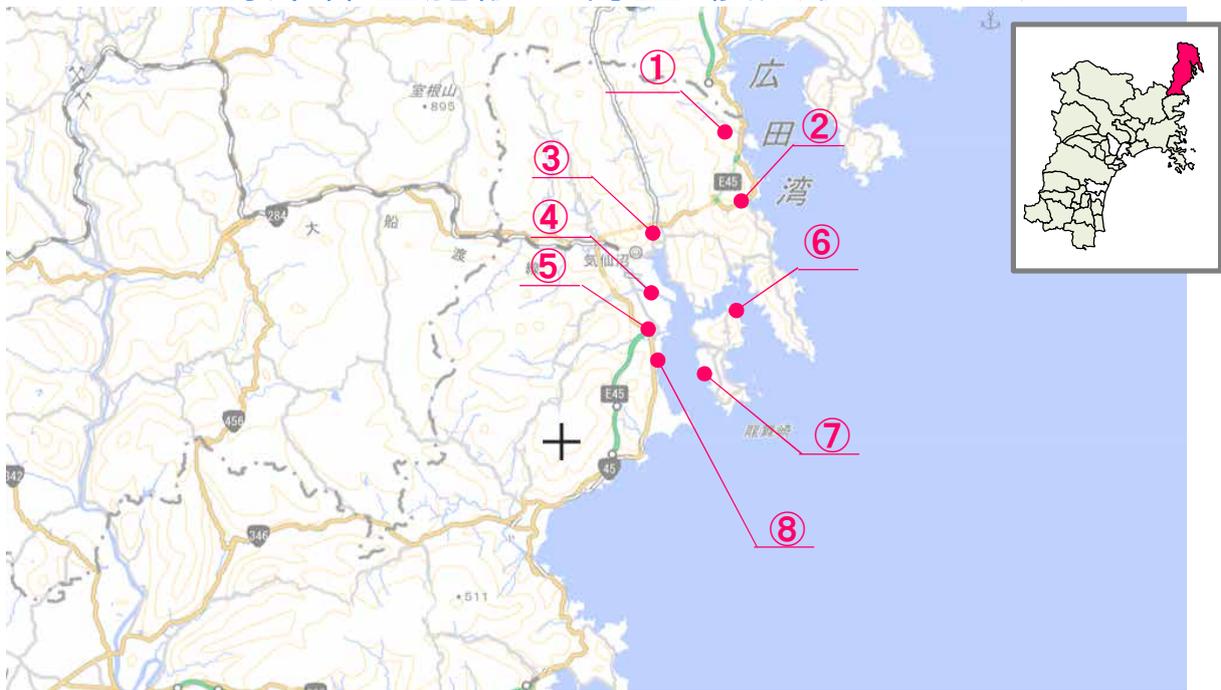
④ (一) 大島浪板線 気仙沼市浦の浜地内
気仙沼大島ウェルカム・ターミナル付近

完成



④ 令和2年2月28日
供用開始

河川・海岸保全施設の再生・復興状況の写真



着工前



① 青野沢川 気仙沼市唐桑町
青野沢川河川災害復旧工事

施工中



令和2年2月

着工前



② 只越川 気仙沼市唐桑町
只越川河川災害復旧工事

完成



令和2年1月21日完成

着工前



③ 鹿折川 気仙沼市
鹿折川河川災害復旧工事

施工中



令和2年2月

着工前



④ 大川 気仙沼市
大川外河川災害復旧工事

施工中



令和2年2月

着工前



⑤ 面瀬川 気仙沼市
面瀬川河川災害復旧工事

施工中



令和2年2月

着工前



⑥ 亀山磯草（1） 気仙沼市
亀山磯草海岸災害復旧工事（その2）

施工中



令和2年2月

着工前



⑦ 高井浜大向地先海岸 気仙沼市
高井浜大向地先海岸災害復旧工事

施工中



令和2年2月

着工前



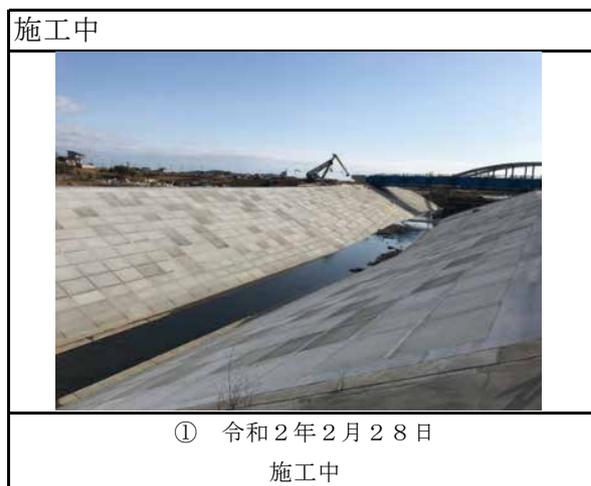
⑧ 千岩田地区海岸

完成



令和2年3月

河川・海岸保全施設の再生・復興状況の写真



着工前



② 中島地区海岸 気仙沼市本吉町地内
中島地区海岸災害復旧工事

施工中



② 令和2年2月28日
施工中

着工前



② 津谷川 気仙沼市本吉町地内
津谷川災害復旧工事

施工中



② 令和2年2月28日
施工中

港湾施設の再生・復興状況の写真



国土地理院の電子地形図に位置を追記して掲載

着工前



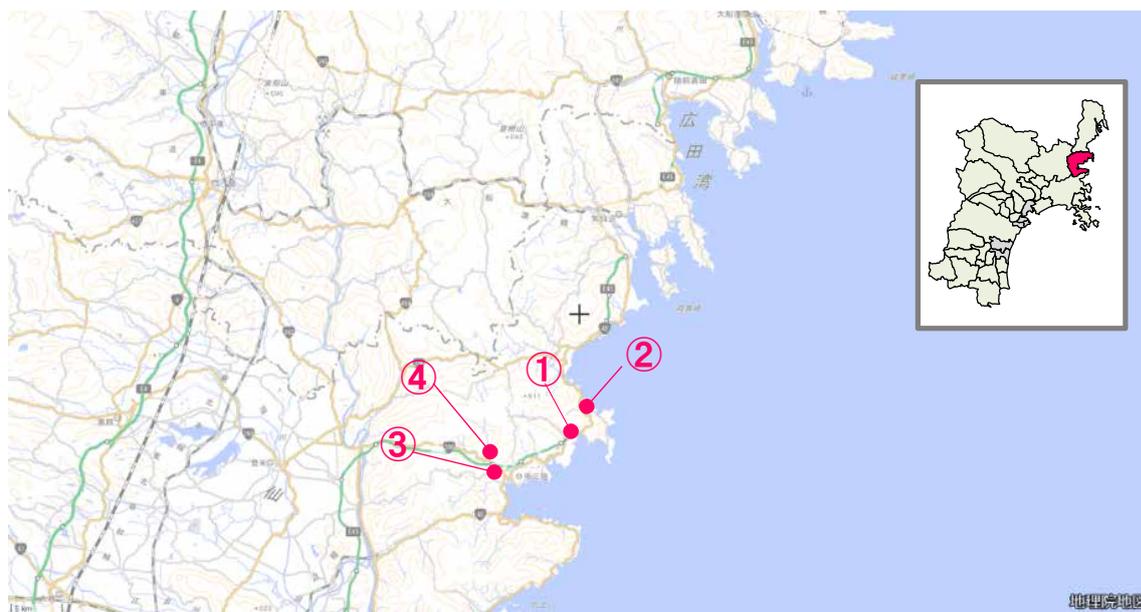
① 気仙沼港（朝日地区） 気仙沼市朝日町地内
災害復旧事業／沈下／臨港道路

完成



① 令和2年1月17日
完 成

河川・海岸保全施設の再生・復興状況の写真



国土地理院の電子地形図に位置を追記して掲載



着工前



被災後(H23.3)

③ 折立川 南三陸町戸倉字折立地内
着工前

施工中



③ 令和2年2月
築堤護岸工の施工中

着工前



④ 八幡川 南三陸町志津川字廻館地内
着工前

施工中



① 令和2年2月
築堤護岸工の施工中



宮城県土木部

令和元年度 復旧・復興カレンダー

(仙台港区)

4月29日 客船「セブンスーズ・マリナー」入港



旅客船「セブンスーズ・マリナー」が仙台塩釜港(高松2号ふ頭岸壁)に入港。

4月

6月12日 6.12土木部防災訓練を実施

三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の地震が発生し、東北地方太平洋沿岸に大津波警報が発表されたという想定のもと、防災訓練を実施しました。



5月

(塩釜港区)

7月 被制御局(塩釜1)が完成



6月

(塩釜港区)

8月 西ふ頭観光棧橋工事が完成



7月

(仙台港区)

8月5日・10月9日・11月19日 「ヒアリ」侵入防止対策の実施



高砂コンテナターミナルにおいて「ヒアリ」の侵入及び拡散防止を図るため、港内の点検作業やトラップ設置・回収等を実施しました。

8月

(塩釜港区)

10月 小友浜護岸工事が完成



9月

(仙台港区)

11月17日 「高砂コンテナターミナル休憩所」竣工



高砂コンテナターミナル内に、(一財)東北港湾福利厚生協会が整備を進めていた休憩所が完成しました。

10月

(仙台港区)

11月6日 「港湾保安総合訓練」を実施

緊急事態発生時の対応に関する知識及び能力の向上、関係者間の連携強化等を目的として、海上保安部をはじめ関係者が仙台港に参集し、保安総合訓練が行われました。



11月

(仙台港区)

12月 栄船だまりネーミングライツスポンサーが決定



宮城マリンサービス(株)がスポンサーとなり、愛称は「宮城マリンタグポートステーション仙台」となりました。

12月

(仙台港区)

12月4日 RORO船「神珠丸」初入港



栗林商船(株)所有の「神珠丸」(14,502トン)が就航し、仙台塩釜港(高松2号ふ頭岸壁)に初入港しました。

1月

(仙台港区)

3月 「高砂コンテナターミナルトラックゲート」が完成



高砂コンテナターミナル拡張事業で整備を進めていたトラックゲート(IN6ゲート, OUT2ゲート)が完成しました。

2月

(仙台港区)

1月 コンテナ貨物取扱量が28.9万TEUを突破

高砂コンテナターミナルの平成31年コンテナ貨物取扱量は、約28.9万TEU(速報値)を記録。5年連続で過去最高を更新しました。



3月

(1) 事務所の動き

令和元年度は、宮城県社会資本再生・復興計画「発展期」の2年目であることから、東日本大震災からの復旧・復興の総仕上げに向け重要な年であり、自治法派遣職員2名を含む職員27名(H31.4.1現在)が一丸となり復旧・復興事業の完遂に向け事業推進を図ってきた。

令和元年度の事業費は、現年予算57億円と繰越予算33億円を合わせた90億円、このうち東日本大震災関連事業費が75億円で全体事業費の83%を占め、この他、コンテナ取扱量の増加に対応するため、高砂コンテナターミナルの拡張事業など各通常事業も併せて実施している。

当事務所では、自らに課せられた課題や目標を明確化することで目標達成に向け全職員の力を結集するとともに、「明るく」「前向き」をモットーに風通しの良い職場環境づくりを心がけ、港湾利用者などと調整を図りながら、円滑かつ着実な事業推進に取り組んでいる。

(2) 災害復旧事業

当事務所管内の公共土木施設災害復旧事業全185箇所のうち、すべての工事に着手し、174箇所(94.1%)の工事が完了した。事業費ベースでは、全体事業費357億円に対し、着手済み357億円(100%)、完成が326億円(91.2%)となった。

東日本大震災 災害復旧事業の進捗状況(R2.3月末)

		全体	着手済	うち完成	着手率(%)	完成率(%)
港湾施設	箇所	130	130	126	100.0%	96.9%
	金額(億円)	188	188	183	100.0%	97.3%
海岸保全施設	箇所	45	45	38	100.0%	84.4%
	金額(億円)	161	161	134	100.0%	83.2%
公園・緑地等	箇所	10	10	10	100.0%	100.0%
	金額(億円)	8	8	8	100.0%	100.0%
合計	箇所	185	185	174	100.0%	94.1%
	金額(億円)	357	357	326	100.0%	91.3%

○本年度完成した主な箇所

西ふ頭観光棧橋
(塩釜港区)



小友浜護岸
(塩釜港区)



小浜(B)防波堤
(塩釜港区)



(3) 復興事業

1. 新規防潮堤整備事業(津波防護レベル1)

新規防潮堤整備事業では、懸案となっていた仙台港区栄東地区及び塩釜港区要害地区の防潮堤用地取得がすべて完了し、両地区の防潮堤工事(陸閘を除く)に着手した。この着手により、社会資本整備総合交付金事業(復興枠)の全ての防潮堤工事が着手済みとなった。

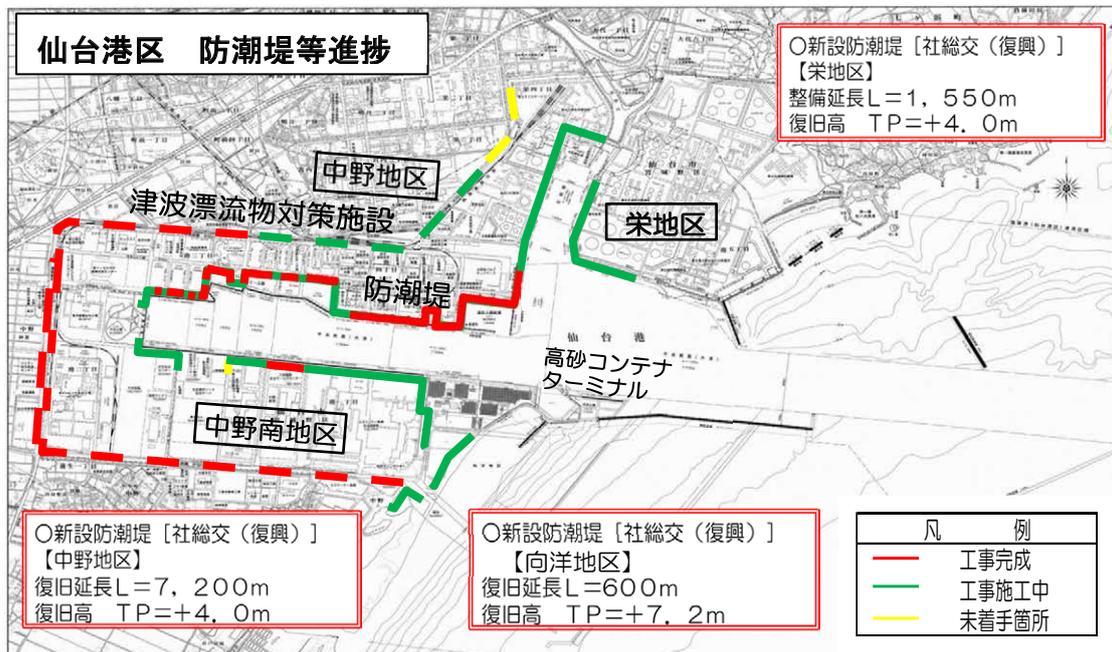
2. 津波漂流物対策施設事業

津波漂流物対策施設事業では、全体延長 5.1 kmのうち蒲生幹線・中野幹線及び中央幹線の一部区間の 3.6 kmが完成しており、引き続き、残る未整備区間の中央幹線及び北幹線区間の整備推進を図っていく。

復興事業進捗状況(R2.3月末)

()はH31.3月末時点

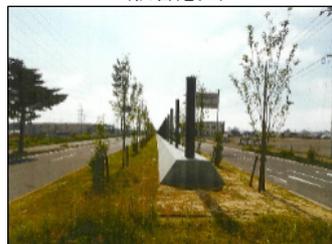
		全体	進捗状況			着手率	完了率
			着手済	完了	未着手		
港区全体	防潮堤(km)	14.4	14.4 (11.1)	7.4 (5.1)	(5.6)	100 (77)	51 (35)
	漂流物対策施設(km)	5.1	4.5 (3.6)	3.6 (3.6)	0.6 (1.5)	88 (71)	71 (71)
仙台港区	防潮堤(km)	9.2	9.2 (5.9)	2.6 (2.1)	(5.6)	100 (64)	28 (23)
	漂流物対策施設(km)	5.1	4.5 (3.6)	3.6 (3.6)	0.6 (1.5)	88 (71)	71 (71)
塩釜港区	防潮堤(km)	5.1	5.1 (5.1)	4.7 (2.9)		100 (100)	92 (57)
松島港区	防潮堤(km)	0.1	0.1 (0.1)	0.1 (0.1)		100 (100)	100 (100)



被制御局【仙台2】
(仙台港区)



津波漂流物対策施設(中央幹線)
(仙台港区)



小浜(B)防潮堤消波ブロック設置工事
(塩釜港区)



(4) 9年目の課題

1. 復旧・復興事業

東日本大震災で甚大な被害を受けた港湾及び海岸保全施設及びの復旧事業及び復興事業については、宮城県震災復興計画の最終年度となる令和2年度の完遂に向け、予算管理の徹底及び各工事の精算変更事務手続きなど進行管理の徹底を図る必要がある。

2. 通常事業(高砂コンテナターミナルの早期完成に向けて)

仙台港区では、コンテナ取扱量増加への対応やコンテナヤード狭隘化の解消を図るため高砂コンテナターミナル拡張事業(6ha)を進めており、令和2年4月の暫定供用に向けトラックゲートや仮設空コンゲートなどの整備を着実に進めるとともに、残事業費を踏まえ工事の優先順位を検討したうえで、事業計画の見直しをする必要がある。

また、向洋地区ふ頭再編改良事業(4ha)で高砂ふ頭3号岸壁及びふ頭用地の造成を進めていることから、引き続き、港湾荷役業者と連携した荷役方式の見直しをはじめとし、ターミナル全体(21ha→31ha)の効率化・高度化に向けたソフト対策の検討を進めていく必要がある。

3. その他

○バルク貨物の仙台港区から塩釜港区へのシフト

仙台港区では、完成自動車やシャーシなどのユニット貨物取扱量の増大に伴い岸壁及び荷捌き地が過密状態となっている。この状態を緩和するため、小型貨物船で海上輸送可能な水産品・スクラップ、砂・砂利等については、引き続き、荷主及び港湾運送事業者などの港湾利用者と調整を図り、仙台港区から塩釜港区へ貨物シフトの要請を図る必要がある。

河川・海岸保全施設の再生・復興状況の写真



着工前



① 仙台塩釜港（塩釜港区）塩竈市浦戸野々島毛無崎地内
毛無崎胸壁外災害復旧工事

完成



① 令和2年3月
完成

着工前



② 仙台塩釜港（塩釜港区）塩竈市浦戸野々島毛無崎・浦戸石浜本石浜地内
毛無崎胸壁（陸側）災害復旧外工事

完成



② 令和2年3月
完成

着工前



③ 仙台塩釜港（塩釜港区）塩竈市浦戸石浜本石浜地内外
石浜防潮堤外工事

完成



③ 令和2年2月
完成

着工前



④ 仙台塩釜港（塩釜港区）塩竈市北浜四丁目地内
北浜防潮堤外工事

完成



④ 令和2年3月
完成

着工前



⑤ 仙台塩釜港（塩釜港区）塩竈市港町一丁目地外
西ふ頭観光さん橋外災害復旧工事

完成



⑤ 令和元年8月
完成

着工前



⑥ 仙台塩釜港（塩釜港区）塩竈市貞山一丁目地内
貞山ふ頭防潮堤（陸閘）工事（その3）

完成



⑥ 令和元年11月
完成

着工前



⑦ 仙台塩釜港（塩釜港区）七ヶ浜町東宮浜要害地先外
要害浦胸壁（陸閘）災害復旧外工事

完成



⑦ 令和2年3月
完成

着工前



⑧ 仙台塩釜港（塩釜港区）七ヶ浜町東宮浜字笠岩地先
東宮ふ頭さん橋改良外工事（その1）

施工中



⑧ 平成31年4月
さん橋床版撤去完了

着工前



⑨ 仙台塩釜港（塩釜港区）七ヶ浜町東宮浜字笠岩地内
東宮ふ頭さん橋改良工事（その3）

施工中



⑨ 令和2年3月 現在
鋼管杭打設・床版1/4スパン完了

着工前



⑩ 仙台塩釜港（塩釜港区）七ヶ浜町東宮浜字笠岩地先
東宮浜胸壁（陸閘）災害復旧外工事

完成



⑩ 令和元年10月
完成

着工前



⑪ 仙台塩釜港（塩釜港区）七ヶ浜町東宮浜字笠岩地内外
塩釜港区陸閘被制御局上屋新築工事（その2）

完成



⑪ 令和元年7月
完成

着工前



⑫ 仙台塩釜港（塩釜港区）七ヶ浜町代ヶ崎浜清水地先外代ヶ崎清水防潮堤（陸閘）外災害復旧工事

完成



⑫ 令和2年3月
完成

着工前



⑬ 仙台塩釜港（塩釜港区）七ヶ浜町花渚浜館下地先吉田花渚浜防潮堤（陸閘）災害復旧外工事（その2）

完成



⑬ 令和元年10月
完成

着工前



⑭ 仙台塩釜港（塩釜港区）七ヶ浜町花渚浜字古館地先外小浜（B）防波堤消波ブロック設置工事（その3）

完成



⑭ 令和元年9月
完成

着工前



⑮ 仙塩釜港（仙台港区）仙台市宮城野区港四丁目地内外
仙塩釜港区防潮堤陸開外（その2）工事

完成



⑮ 令和元年9月
完成

着工前



⑯ 仙塩釜港（仙台港区）仙台市宮城野区港四丁目地内外
仙塩釜港区陸開被制御局上屋新築工事

完成



⑯ 令和元年7月
完成

着工前



⑰ 仙塩釜港（仙台港区）仙台市宮城野区港四丁目地内外
向洋地区防潮堤工事

完成



⑰ 令和2年3月
完成

令和元年度 復旧・復興カレンダー

4月1日 富山県の派遣職員の着任



自治法派遣職員として平成31年4月1日より富山県から正保さん、浦山さんの2名が着任されました。

5月23日 保安総合訓練を実施

SOLAS条約(「海上における人命の安全のための国際条約」)に基づき、港湾における保安対策の一環として、本年は、船でテロリストが現れた想定に基づき、情報伝達訓練とテロリストを追跡・拘束するなどの訓練を行いました。



8月6日 石巻港探検ツアー開催

石巻港整備・利用促進期成同盟会が主催する「石巻港探検ツアー」が開催されました。石巻市内及び東松島市内の小学5・6年生とその保護者が参加し、石巻港の歴史や港の役割を学んだほか、国土交通省の業務艇「ひより」に乗船し、海から港内を見学しました。



9月21日 第18回港湾感謝祭開催

第18回港湾感謝祭開催が大手ふ頭で開催され、多くの方々が来場しました。当日は、「ウエルカムフェスタ2019」も同時開催され、「ばいふいっくびいなす」が入港し、入港時には宮城県石巻高校書道部による書道パフォーマンスなど歓迎イベントも開催されました。



12月5日 雲雀野地区防潮堤(その5)工事完了

雲雀野地区防潮堤(その5)工事が完了しました。
TP+7.2m
延長534.0m
また、3月迄に雲雀野地区防潮堤(その4)工事も完了し、雲雀野地区防潮堤整備が概成しました。



2月12日 西水路南地区防潮堤(その6)外工事完了

西水路南地区防潮堤(その6)外工事が完了しました。
TP+3.5m
延長598.7m
当該工事の完了に伴い、西水路南地区の防潮堤整備が陸間扉体据付を除き完成しました。



4月

4月12日 客船「ダイヤモンド・プリンセス」入港

客船「ダイヤモンド・プリンセス」が雲雀野中央ふ頭に入港。地元のゆるキャラなどが描かれた大漁旗による出迎えが行われたほか、会場では、物産販売コーナーや地酒のお振る舞いコーナーが設けられ、宮城の味覚を堪能されました。



5月

6月

6月12日 総合防災訓練を実施

「みやぎ県民防災の日」に合わせ、大規模地震が発生した場合の初動体制を確認し、現状の課題抽出と今後の危機監視体制の検証を目的として、総合防災訓練を行いました。



7月

8月

8月21日 客船「オーシャンドリーム」入港

客船「オーシャンドリーム」が平成25年以来、6年ぶりに雲雀野中央ふ頭に入港しました。当日は、歓迎イベントが開催されたほか、事前に申し込みした市民の方々を対象に船内見学などのイベントも開催されました。



9月

10月

10月1日 富山県の派遣職員が交代

自治法派遣職員として富山県から応援いただいていた浦山さんが9月30日に離任され、10月1日から新たに山田さんが着任されました。



11月

12月

10月23日 油流出事故対応訓練を実施

石巻港区内での油流出事故を想定した委託業者と合同の油流出事故対応訓練を南浜大型棧橋で行いました。訓練では、オイルフェンス巻取機の操作確認のほか、吸着マットを使用した油回収や無線機を使用した情報伝達の各訓練を行いました。



1月

2月

2月25日 雄勝港 伊勢畑防潮堤災害復旧(その2)工事完了

伊勢畑防潮堤災害復旧(その2)工事が完了しました。
TP+9.7m
延長350.4m
また、3月までに伊勢畑防潮堤災害復旧(その1)工事も完了し、伊勢畑地区防潮堤復旧が概成しました。



3月

(1) 事務所の動き

当事務所は、国際拠点港湾の仙台塩釜港(石巻港区)と地方港湾5港(女川港, 雄勝港, 金華山港, 荻浜港, 表浜港)を所管している。石巻港区は、港湾背後の臨海部に紙・パルプ関連, 木材・合板関連, 飼料関連産業等が集積しており, 東北地方の産業・経済を支える重要な役割を担っている。また, 各地方港は観光や水産業などの地域産業を支える基盤になっている。

東日本大震災では, 各港湾が甚大な被害を受けており, 発災後から復旧・復興事業の完遂に向けて取り組んできた。

震災から9年目となった令和元年度は, 引き続き, 海岸保全施設を主体に復旧・復興事業の推進に努めたほか, 継続的に寄港する大型クルーズ船の受入について関係機関と連携の上, 体制整備を図った。

当事務所では, 年度当初の組織運営として, ~最大の被災地に働くことを「誇り」に思い, 事務所全体の「和」を大切にして, チームワークで課題を解決するとともに, 職場内を「楽しく」することを心がけ, 心身ともに健康を第一として業務にあたる~を取組方針に掲げ業務に取り組んできた。

(2) 災害復旧事業

当事務所が所管する災害復旧事業は94箇所です。令和2年3月末時点で全て着手済みです。

令和元年度は, 女川港横浦地区の事業が完成したほか, 石巻港区東浜及び雄勝港伊勢畑地区の防潮堤本体工事が概成し, 令和元年度末時点では, 新たに石巻港区10箇所, 女川港2箇所が完了し, 累計の完了は箇所ベースで73箇所(78%), 金額ベース約425億円(96%)です。

令和2年度は復旧・復興期間の最終年度であり, 災害復旧の完遂に向け, 引き続き進捗管理を行い, 事業を進めていく。

災害復旧事業進捗状況

進捗状況	全体	進捗状況			完了率 (%)	着手率 (%)
		完了	着手済	未着手		
港湾・海岸 箇所	94	73	21	0	78%	100%
金額(億円)	441	425	16	0	96%	100%

金額：事務費除く



石巻港東浜防潮堤災害復旧工事



雄勝港伊勢畑防潮堤災害復旧工事



雄勝港立浜防潮堤災害復旧工事

(3) 復興事業

復興事業により、新たに整備する防潮堤は、仙台塩釜港(石巻港区)L=11.9km、荻浜港 L=0.17km, 表浜港 L=0.63kmを計画し、令和2年3月末時点で全て着手済みである。

令和元年度は、石巻港区雲雀野地区及び西水路南地区の防潮堤整備が陸開扉体据付を除き完成。令和元年度末迄に石巻港区でL=11.2kmの整備が完了しており、全体の完了率も88%である。

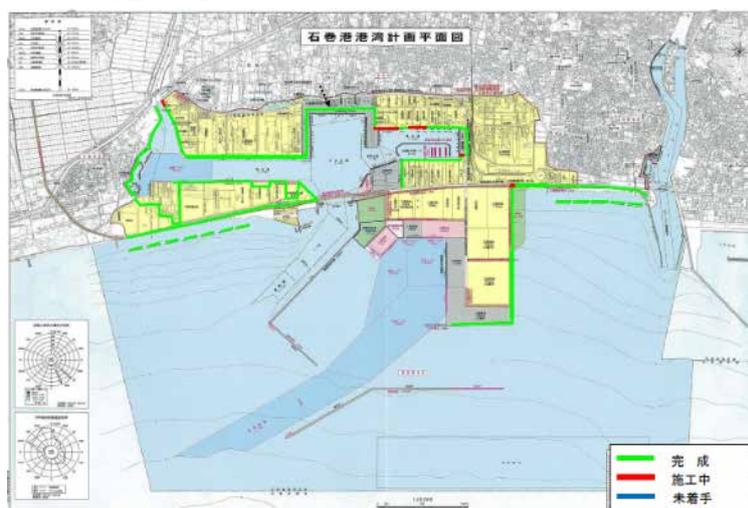
重点事業である表浜港の防潮堤整備については、漁業関係者との調整に伴う設計の修正が生じたなどの理由から遅延し、令和2年1月から地盤改良工事等に本格着手している状況であり、令和2年度の事業完遂に向け、重点的に進捗管理とフォローアップを行っていく。

また、企業へ操作を委託する石巻港区内の陸開扉については、対象企業等5者に対し操作委託協定(案)を説明し、3者と合意書締結、1者と議事録署名により合意済みである。

防潮堤進捗状況

進捗状況		全体 (km)	進捗状況			完了率 (%)	着手率 (%)
			完了	着手済	未着手		
石巻港区		11.9	11.2	0.7	0	94%	100%
地方港	荻浜港	0.17	0	0.17	0	0%	100%
	表浜港	0.63	0	0.63	0	0%	100%
合計		12.7	11.2	1.5	0	88%	100%

石巻港区防潮堤進捗状況図



石巻港雲雀野地区工事



石巻港雲雀野地区工事



石巻港西水路南地区工事

(4) 9年目の課題

復旧・復興事業で実施する防潮堤工事については、石巻港区の一部陸閘工事を除く全てに着手しているが、石巻港区、雄勝港及び荻浜港の防潮堤工事では港湾利用車両等の出入りを確保する必要から、陸閘部と本体を同時施工が出来ず、施工期間が長期化していること。また、他機関所管の隣接工事の遅れによる遅延も発生していることから、関係工事全体の工程を横断的に把握した上、クリティカルパスを明確にした進行管理行っており、令和2年度の完了に向けては、更に状況の変化に応じた調整とフォローアップが重要である。

上記に対応するため、所員間の情報共有の他、令和元年度から取り組む所員各自が進行管理を目的とした「事業管理シート」及び業務管理を目的とした「業務管理シート」の二つのツール活用を推進する。

企業へ操作を委託する陸閘については、整備計画時に説明を行ったものの、時間が経過しており、円滑な操作委託協定締結に向け、再説明と事前合意を得る必要があった。このため、令和元年度において、石巻港区においては関係企業5者に対し委託内容等の再説明を行い、3者と合意書締結、1者と議事録署名による合意確認が出来た。

引き続き、残る企業への説明と調整を行い、確実な操作委託協定締結に向けた取り組みを行う。

なお、雄勝港の1者については平成30年度内に協定締結済みである。

また、雲雀野航路泊地の堆積対策については、航路運用などについて利用者との情報交換を行っており、補正予算により実施する浚渫についても、情報を共有の上、浚渫位置などは利用者意見も参考にしつつ効果的な対策を行う。

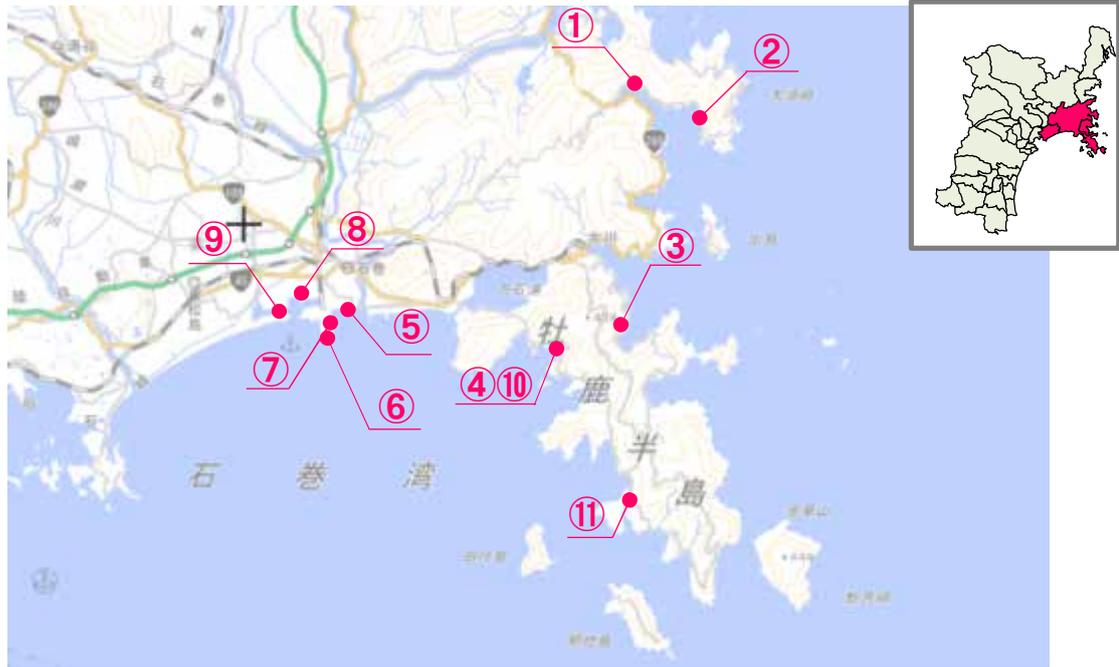
(5) おわりに

令和元年度は海岸保全施設の整備が進捗したほか、主要な工事が概ね着手され令和2年度の復旧・復興事業の完遂が見えてきた一年であった。

令和2年度においては、第一に復旧・復興事業の進捗管理を徹底して行くが、その後の事業展開を検討する重要な年でもある。令和元年度に立ち上げた所内会議を継続し共通認識を図った上、各班の課題解決と石巻港区の事業展開を検討する必要がある。

最後に令和元年度も引き続き富山県から3名の職員を派遣いただき、地元対応を含め積極的に事業調整を行い、事業促進に対して多大な貢献をしていただき大きな成果を得ることができた。末筆ながら感謝とともに富山県での活躍を心より祈念する。

港湾施設の再生・復興状況の写真



国土地理院の電子地形図に位置を追記して掲載

着工前



① 雄勝湾海岸（伊勢畑地区）石巻市雄勝町伊勢畑地先
伊勢畑防潮堤災害復旧（その2）工事

完成



① 令和2年2月25日
完成

着工前



② 雄勝湾海岸（立浜地区）石巻市雄勝町立浜地先
立浜防潮堤災害復旧工事

完成



② 令和元年12月16日
完成

着工前



③ 女川港海岸女川港（横浦地区）女川町横浦地内外横浦防潮堤外災害復旧（その3）工事

完成



③ 令和2年3月9日
完成

着工前



④ 荻浜港海岸（荻浜地区）石巻市荻浜地内小積防潮堤外災害復旧（その2）工事

完成



④ 令和元年8月23日
完成

着工前



⑤ 仙台塩釜港石巻港区海岸東浜地区 石巻市雲雀野町地内東浜防潮堤災害復旧（その4）工事

完成



⑤ 令和元年11月5日
完成

着工前



⑥ 仙台塩釜港石巻港区海岸雲雀野地区 石巻市雲雀野町地内
雲雀野地区防潮堤（その4）工事

完成



⑥ 令和2年3月23日
完成

着工前



⑦ 仙台塩釜港石巻港区海岸雲雀野地区 石巻市雲雀野町地内
雲雀野地区防潮堤（その5）工事

完成



⑦ 令和元年12月5日
完成

着工前



⑧ 仙台塩釜港石巻港区海岸釜地区 石巻市三河町地内
日和地区防潮堤（その2）工事

施工中



⑧ 令和2年3月 現在
施工中

着工前



⑨ 仙台塩釜港石巻港区海岸西浜南浜地区 石巻市西浜町地内
西水路南地区潮堤（その6）外工事

完成



⑨ 令和2年2月12日
完成

着工前



⑩ 荻浜港海岸有田浜地区 石巻市荻浜有田浜地内
有田浜防潮堤工事

施工中



⑩ 令和2年3月 現在
施工中

施行中



⑪ 表浜港海岸 石巻市給分浜地内
表浜港防潮堤（その2）工事

施工中



⑪ 令和2年3月 現在
施工中

令和元年度 復旧・復興カレンダー

4月23・25日 ダム情報伝達連絡会を実施



洪水期におけるダムの確実な情報伝達や地域住民への効果的な情報発信に資するため、関係機関に対してダムの洪水調節の仕組みや洪水時にダムから通知する情報について説明しました。

6月12日 ダム防災訓練を実施

県民防災の日にあわせて、地震防災訓練を実施しました。東日本大震災クラスの地震が発生したという想定のもと、地震時点検の内容確認や情報収集伝達訓練を行いました。



台風等による洪水警戒配備状況



8月:1回(南川ダム)
9月:1回(宮床ダム)
10月:3回(全ダム6ダム)
1月:1回(樽水・南川・宮床ダム)の計6回の洪水警戒配備体制をとりました。

8月25日 南川ダム資料館公開講座
10月～11月 樽水ダム出前講座を開催

洪水時におけるダム操作やその際に提供される情報とその意味について、一般住民を対象に公開講座及び出前講座を開催しました。



10月1日 スマイルサポーターへの感謝状



大倉ダムで活動して頂いているスマイルサポーターと樽水ダムで活動して頂いているスマイルサポーターの2団体へ宮城県知事の感謝状が贈呈されました。

11月 川内沢ダム付替市道1・2号橋下部工工事着手

川内沢ダム建設事業に伴いダム湖北側に付替整備する市道の川内沢川に架かる1号橋及び2号橋の下部工事に着手しました。



各ダム管理水位について

平成23年東北地方太平洋沖地震により、下流河川流域の地盤沈下や、河川施設の被災が発生し、水防警戒の基準水位の見直しが行われたことから、洪水時における治水安全度を向上させるため、通常の常時満水位(制限水位)より1.0m低い水位を設定し、治水容量の増大を図っております。平成23年5月から実施しており、樽水ダム、七北田ダム及び忽の関ダムについて令和元年度も実施しました。南川ダム及び宮床ダムについては、平成27年度から通常運用で管理を行っています。

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

5月10日 6月26日 洪水対応演習を実施



洪水期のダム管理に万全を期すため、洪水時の関係機関への通知や下流住民への放流警戒など、対応方法と情報伝達、洪水シミュレーション演習を行いました。

8月・12月 集団移転関係者との意見交換会を実施

川内沢ダム建設事業では13軒の家屋が移転となり、その内4軒の地権者の方々は集団で生活を再建したいとの意向があったことから、関係地権者の方々がスムーズに集団移転できるように開催しました。



8月21日・12月12日 ダム管理ワーキングを実施



これから将来のダム管理のあり方について、大崎・栗原地方ダム総合事務所とワーキングを実施しました。

9月27日 大倉ダム湖周辺秋季清掃を実施

秋の観光シーズンに向け、スマイルサポーターの方々や関係団体と協働でダム湖周辺の清掃を行いました。



10月30日 川内沢ダム付替市道橋梁下部工工事説明会を実施



川内沢ダム建設事業に伴い水没する市道をダム湖北側に付替整備するため、地域住民の方々を対象に工事説明会を実施しました。

3月19日 宮床ダム取水塔内水位計更新工事完成

宮床ダムの取水塔設備の水位計について、設置当初から使用しておりダム管理に重要な機器であるため、水位計センサー並びに変換器の更新工事を実施し無事に完成しました。



各ダム見学会の実施



ダムの仕組みや役割を理解していただくため、当事務所で管理する6ダムで見学会を実施しました。今年度は仙台市内や周辺市町の小学校を中心に計24団体、1,229名がダム見学に訪れました。

(1) 概要

東日本大震災の発生から9年を迎えるが、当事務所が管理する6つのダムは、当時、ダム機能に大きく影響する被害はなく、平成24年度内には、被災した警報局等の災害復旧工事が全て完了している。

現在は、維持管理業務、堰堤改良事業及び新規ダム建設として川内沢ダム建設事業を遂行している。

(2) ダム管理

当事務所では、大倉ダム、樽水ダム、七北田ダム、南川ダム、宮床ダム及び惣の関ダムの6ダムを管理している。そのうち、最も古い大倉ダムは、昭和37年管理開始以来58年が経過している。最も新しい惣の関ダムでも、平成15年に管理を開始し、16年が経過しており、計画的な維持管理が課題となっている。

週点検・月点検・年点検を実施し、施設の状態を正確に把握するとともに、不具合箇所での修繕等を実施するなど、施設の安全性・信頼性を確保に努めている。

また、今後進行するダムの老朽化により機能低下が進む中で、より効果的に機能の回復を行うため、施設・設備の劣化状況及び経過年数等を踏まえて策定された長寿命化計画に基づいて堰堤改良事業も同時に実施しており、今年度は樽水ダムの堰堤改良事業を継続し、観測設備やダム諸量設備の改良工事を実施している。

しかしながら、長寿命化計画と堰堤改良事業予算との乖離が大きいことから、県庁との予算調整を継続し、長寿命化計画の着実な執行に努めていく。

洪水警戒配備については、6回実施し令和元年10月12日から13日にかけての台風19号では6ダムで記録的な流入量となり全てのダムで洪水調節を実施している。また、地震時点検は、6月18日、8月4日、2月12日に発生した震度4の地震により、大倉・樽水・七北田・惣の関ダムで一次点検を、大倉ダムで二次点検を実施している。

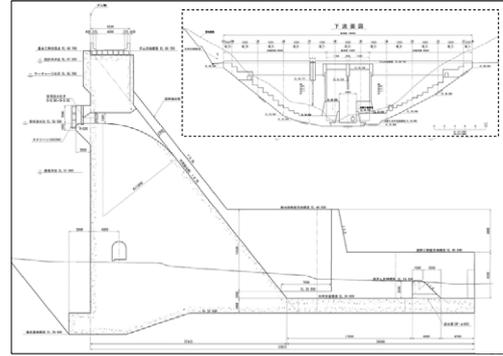
地盤沈下の著しい東部低平地沿岸地域の浸水被害低減に配慮しつつ、的確なダム操作を実施し、水道事業者や利水関係者等との積極的な情報共有化や意見交換により、利水の安定供給に努めた。

(3) 川内沢ダム建設事業

名取川水系川内沢川において建設を進めている川内沢ダム建設事業については、前年度に引き続きダム建設に向けた調査・設計及び事業用地の取得を進めるとともに、11月からは付替市道の工事に着手した。

〈ダムの諸元〉

- ・河川名:一級河川名取川水系川内沢川
- ・位置:名取市愛島笠島
- ・目的:洪水調節, 流水の正常な機能の維持
- ・型式:重力式コンクリートダム
- ・堤高:H=39.7m ・堤体積:V=54,000 m³
- ・総貯水容量:V=1,790,000 m³

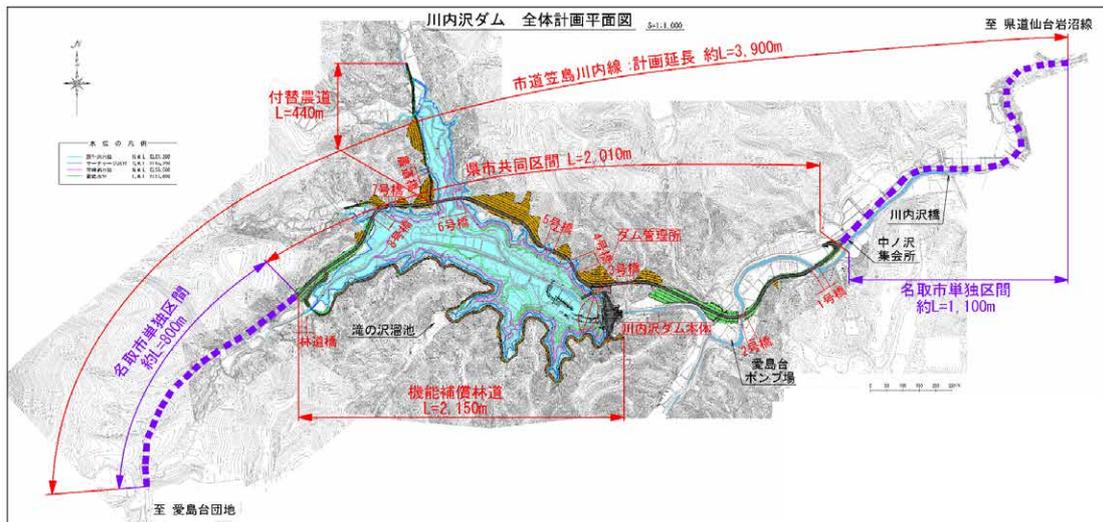


用地取得については、平成30年10月から個別用地交渉に移行し、令和2年3月末時点で71名中(家屋移転13名, 用地のみ58名)57名(家屋移転13名, 用地のみ44名)と契約済みである。

また、水没移転者の集団移転については、県が提供する代替地の決定及び売渡価格の合意並びに造成内容等に関する意見交換会を経て、造成工事に着手し、年度末に工事が完成した。

調査設計関係については、ダム本体実施設計及び施工計画・施行設備実施設計を行い、令和2年2月26日に国土交通省におけるダム基本設計会議(本体実施設計)に諮り、ダムの安全性や合理的な設計・施工に係る重要な技術的課題について、検討、確認を頂いた。

工事については、令和元年10月から水没する名取市道の付替市道1号橋・2号橋下部工工事に着手し、年度末に1号橋の下部工が完成した。



川内沢ダム建設事業全体工程表

項目	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
調査・設計	ダム本体実施設計・ 施工設備実施設計	■					
	取水放流設備・ 管理設備設計等		■	■			
用地補償	用地補償業務	■	■				
工 事	ダム本体工事			■	■	■	■
	付替市道工事		■	■	■		
	試験湛水						■



令和元年度 復旧・復興カレンダー

5月10日 ダム洪水対応演習



計画超過洪水時におけるダム情報の関係機関への通知や住民に対する警報サイレン等による周知の訓練を、異動による職員の習熟等を目的として、全国のダムで実施され、当所では所管する5ダムで行いました。

7月～9月 湯水

7月から9月にかけて降水量が平年の27%～79%、5ダム平均で7月48%、8月53%、9月49%となり、10月以降の利水補給が困難になることが予測されたことから、利水者と協議調整を行いました。



7月 平成30年災害 災害復旧工事完成

仙女沼ダム諸量一覧		現在時刻	7月	日	時刻
貯水量	98.1%	ダム開閉雨量	0.0	mm	
有効貯水量	77.3%	ダム累計雨量	0.0	mm	
流入量	0.21	湯山山頂雨量	0.0	mm	
全放流量	0.21	湯山山頂貯水量	28.25	mm	
ダム放流量	0.21	分派工流量	2.61	mm	
貯水放流量	0.00	分派工水位	0.26	m	
貯水量	75.0%	大流門水位	1.63	m	
貯水量	75.0%	大流門流量	1.63	m ³ /s	

平成30年6月29日に雷害により被災した仙女沼ダム情報表示盤(大崎地方ダム総合事務所内)の災害復旧工事が7月完成しました。

10月12日 台風19号対応

台風19号では漆沢ダムでの総雨量が354mm、最大流入量が449m³/sと、非洪水期でありながらも過去第3位の豪雨となりました。操作規則に基づき最大放流量を152m³/sとしましたが、下流河川の水位が氾濫危険水位を超えていたことから、放流量を減少させるなどの対応を実施しました。



10月25日 漆沢ダムテレメータ故障・対応



台風21号接近の前日、漆沢ダムテレメータが老朽化のため故障し、水位周知河川の水位データがMIRAIに提供不能となりました。住民避難や水防活動に支障のないよう、対応として、夜間でしたが職員が現地量水標を確認し、MIRAIに手入力し、データ配信しました。その後、応急修繕完了しております。

12月18日 第3次災害査定

台風19号により、ダムへの流木流入、擁壁欠壊等の被災があったことから、災害申請を行い、認められました。



6月12日 土木部防災訓練

ダム総合事務所他3ダム(漆沢ダム、上大沢ダム、ニツ石ダム)を対象として、土木部BCPに基づく点検・報告の手順確認を、委託業者も含めて行いました。



7月 ダム情報の市町首長への説明



ダムの治水機能と計画超過洪水時に発信する情報の内容・意味合いについて、関係市町の首長へ説明を行いました。

7月 漆沢ダム洪水演習

ゲートダムである漆沢ダムで、計画超過洪水の操作等について、様々なパターンによる演習を5回実施し、操作技術の習得を行った。また西日本豪雨を受け、洪水調節の長時間化に備え、ゲートレスダム職員によるバックアップ態勢を構築しました。



8月～ 上大沢ダムアオコ対応



7月から9月にかけての少雨・湯水に伴い、上大沢ダムではアオコが発生し、環境省基準最高レベル6となりました。下流の水質障害はありませんでしたが、次年度に向け、アオコ種子を減少させるため、貯留水の回転促進を実施しました。

12月20日 漆沢ダム定期検査

3年に1度実施されている漆沢ダム定期検査を県河川課職員が実施し、大きな問題のない判定となりました。



1月～2月 鳴瀬川河川研修

当所で管理している5ダムのうち、漆沢ダム、ニツ石ダムが鳴瀬川流域となっており、漆沢ダムに依頼される出前講座では水系一環として鳴瀬川流域の紹介をおこなっています。

河川管理者として流域を知っておく必要から、現場研修、座学研修を実施しました。



(1) 事務所の動き

当事務所では、供用開始後 39 年目を迎える漆沢ダムをはじめとして、経年劣化が進む 5 ダムを所管していることから、ダム機能の維持に向けた適切な維持管理が課題となっている。そのため長寿命化計画に基づいた設備更新を計画的に行うこととしているが、予算が十分に付かず先送りになっていることに加え、劣化が進行し突発的に重要な設備が故障する事態が生じていることから、3 地方ダム総合事務所長会議において「ダム管理及び整備・改良計画メモ」R1 年度版をとりまとめ、今後のダム事業の基礎をつくった。

また平成 30 年 7 月の西日本豪雨によりダムの計画超過洪水時の対応がクローズアップされ、関係機関への情報提供や住民の避難計画(浸水範囲、警報等)のあり方が議論され、関係市町の首長や住民に対しダムの治水機能と効用の限界・住民避難について、ダム直下の想定浸水区域図の作成・公表と併せて今後対応していく。

さらに令和元年台風 19 号においても国内各地でダム異常洪水時防災操作が実施され、下流の被害軽減のための「事前放流」について、今後、利水者と早急に取り決める必要に迫られている。

(2) 主要な取り組み

① 危機管理への対応

1) 洪水・地震配備

○洪水 4 回, 地震 2 回

※うち 1 回はテレメータ劣化故障に伴い、水位周知河川直営観測、MIRAI 手入力を実施。

2) 渇水対応

7 月から 9 月にかけて降水量が平年の 27%~75%, 5 ダム平均で 7 月 48%, 8 月 53%, 9 月 49%となり、各ダムの貯水率が軒並み低下し、特に漆沢ダムでは上水道・工業用水の取水に影響が出る恐れがあったことから、利水者と協議を重ねた。

3) 台風 19 号【災害復旧事業含む】

漆沢ダムでの総降水量 354mm, 最大流入量 $449\text{m}^3/\text{s}$ と、非洪水期であったが、いずれも過去第 3 位の豪雨となった。最大放流量は操作規則に基づき $152\text{m}^3/\text{s}$ としたが、下流河川の水位が氾濫危険水位を超えていたことから、ダムの空き容量を考慮し、放流量を減少させるなどの対応を行った。

また漆沢ダムにおいて流木災、管理用道路災が発生した事により、3 次査定において申請を行い、認められた。

4) バックアップ態勢の強化

近年の降雨の強大化に伴い、異常洪水時防災操作が 24 時間以上続く事例が発生している。洪水予測、ゲート操作が一瞬の緩みもなく継続し、交代要員のいない漆沢ダム職員の疲弊が想定されることから、ゲートレスダム担当職員に対し、漆沢ダムの洪水演習実施を行い、バックアップ態勢の強化に努めた。

5) 超過洪水への対応

超過洪水時には、住民避難を早期に行うことが重要であり、ダム情報をいち早く市町へ提供し、また避難すべき区域を予め市町へ提供しておく必要がある。

i) 洪水予測のスキルアップ

異常時防災操作や非常用洪水吐越流の開始をいち早く予測する必要があることから、ダム毎に作成している洪水予測システムによりシミュレーションを実施し、下流への影響を検討する演習を行った。

ii) ダム情報等に関する市町等への説明

異常洪水時防災操作等のダム情報やダム機能及びその限界について、関係首長へ説明をおこない、住民避難について理解を深めていただくことができた。



② 長寿命化計画による施設更新

ダム施設は人命に直結する施設である事から、突発的な重大な支障を生じた施設については、柔軟に交付金採択するよう国と調整を行った。

また「ダム管理及び整備・改良計画メモ」R1 年度版をとりまとめ、今後のダム事業の基礎をつくった。

(3) 9 年目の課題

① 台風 19 号豪雨を踏まえての取組

毎年のように全国各地で記録的な豪雨による洪水被害が発生しており、昨年 10 月の台風 19 号では宮城県内でも総雨量 600mm を超える大雨で大規模な浸水被害や土砂災害が発生した。このような地球温暖化に伴う異常豪雨や渇水の頻発化に対応するため、ダムの洪水調節機能・貯水池運用のレベルアップ(事前放流等)や、河川と連携した防災・避難情報の充実など、ダムの存在意義や地域への情報提供等に大きな関心が集まっており、可能な対策について確実に実行していくことが重要である。

1) 異常気象に備えた危機対応能力の向上と市町等との連携強化

異常洪水時防災操作等を含めたダムの防災操作は「操作規則」に規定され

ているが、異常気象時においては「ただし書き」の適用の有無など、ダム管理事務所長に高度な判断が求められる場面が発生することから、日頃から様々な降雨規模・パターンやダムの状況を想定した演習を繰り返し、技術力・判断力の向上に取り組む必要がある。

ダム下流の市町においてもダム操作・避難情報等への関心が高まっており、以前にも増して積極的な情報提供が求められている。日頃から、ダム情報の伝達内容の確認や住民避難への連動方法等について、市町の首長・防災担当者との情報共有に努め、顔の見える関係を築いておくことが大切である。

2) ダム設備の老朽化に備えた対応

現在のダム管理予算は「施設が果たす機能や重要性」に対して、圧倒的に不足している。特に、耐用年数が長く見積もっても10～15年程度と短く、一方で、ダムの安全性(震度や揚圧力、漏水量など)の監視やダム・河川の防災情報(放流警報・MIRAI等)に欠かせない「電気通信設備」の更新・修繕の費用が十分確保されずに、時間の経過とともに老朽化が進行する現状は、一刻も早く改める必要がある。

- ・ 必要最小限の予算無しに適正なダム管理はあり得ないという共通認識を持つこと
- ・ 長寿命化計画の維持管理費を削減する新たなダム管理システムの構築に向けて、具体の第一歩を踏み出すこと。(メンバーを募り検討を始めること)

② その他の取組

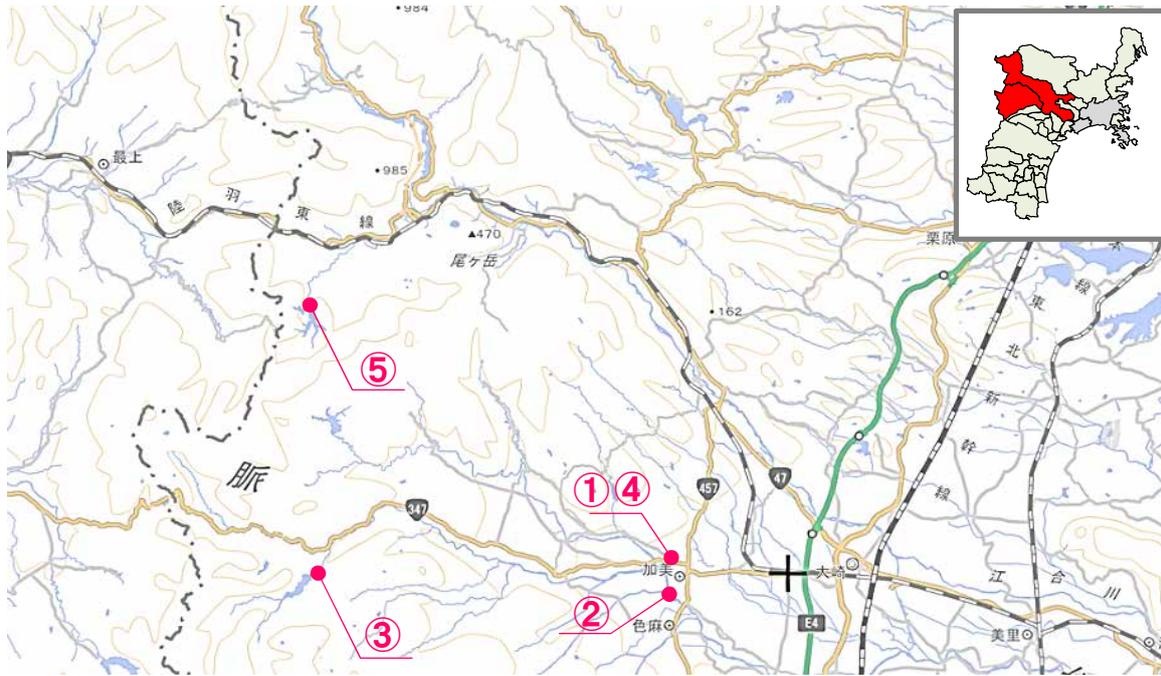
i) 鳴瀬川総合開発(筒砂子ダム建設・漆沢ダム治水専用化)事業への協力

平成26年度の直轄事業へ移行後初めてとなる、地元地権者連絡協議会から要望書が、令和元年7月に国に提出された。要望には県事業時代からの内容も多く、農業施設・地域振興に関わるものも含まれることから、これらを検討する場として本年1月に国、県、町による「鳴瀬川総合開発事業地域連絡調整会議」が発足した。今後、補助、県・町単独事業等の活用も視野に、地元住民の不安等を解消し事業の円滑な推進を図るために、相互に連携・協力していくことが大切である。

ii) 計画的なダム技術者の育成

地球温暖化に伴う大規模豪雨や渇水の頻発化への対応や、設備の老朽化、異常堆砂等による機能の低下など広範囲の課題に対応するには、既成概念にとらわれない新たな発想や技術の活用、流域内の水循環の再構築など、幅広い視点から積極的なアプローチが必要であり、ダムを取り巻く現状や課題、今後果たすべき役割などダム全体を俯瞰し得る技術者の育成が重要になる。

河川施設の再生・復興状況の写真



国土地理院の電子地形図に位置を追記して掲載

着工前



① 化女沼ダム（大崎地方ダム総合事務所）加美町城生字前田地内
災害復旧事業／ダム情報表示盤災害復旧工

完成

化女沼ダム諸量一覧		現在時刻	2月4日 14時31分
貯水位	26.12 El.m	ダム時間雨量	0 mm/h
有効貯水量	777 kM ³ /h	ダム累計雨量	0 mm
流入量	0.21 m ³ /s	岩出山時間雨量	0 mm/h
全放流量	0.21 m ³ /s	岩出山累計雨量	0 mm
ダム放流量	0.21 m ³ /s	分流水位	26.25 El.m
利水放流量	0.006 m ³ /s	分流水雨量	2.81 m ³ /s
導水量	0.76 m ³ /s	大水門水位	0.26 m
導水状況	異常	大水門雨量	1.63 m ³ /s

① 令和元年7月19日
完成

着工前



② 漆沢ダム 加美町字下川原地内
堰堤改良事業／上河原警報表示板更新工

完成



② 令和2年1月31日
完成

着工前



③ 漆沢ダム 加美町字漆沢宮ヶ森地内
災害復旧事業／流木外災害復旧工

完成



③ 漆沢ダム 令和2年4月7日
施工中

着工前



④ 大崎地方ダム総合事務所 加美町城生字前田地内
堰堤改良事業／非常用電源設備改良工事

施工中



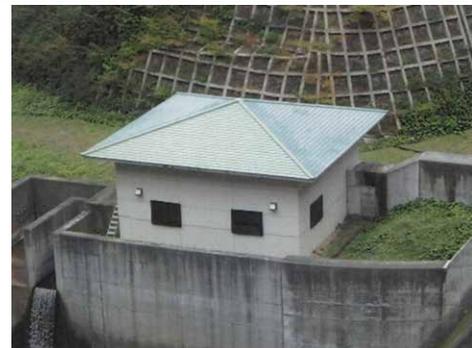
④ 大崎地方ダム総合事務所 令和2年4月14日
施工中（仮設非常用発電機設置）

着工前



⑤ 岩堂沢ダム 大崎市鳴子温泉字奥羽岳地内
基幹水利施設管理事業／放流設備上屋修繕工

完成



⑤ 令和元年11月18日
完成

令和元年度 復旧・復興カレンダー

25日 ダム情報伝達連絡会を開催



洪水警戒時に情報を正確かつ迅速に伝達し、住民の安全、安心を守るため、河川管理者及び栗原市等の防災関係機関担当者による連絡会を開催しました。

17日 超過洪水対応演習を実施



管理4ダム(花山, 栗駒, 荒砥沢, 小田)において、平成30年に山形・秋田で発生した梅雨前線豪雨等を事例として、超過洪水のただし書き操作に必要な予測計算や、ゲート開度設定等の机上訓練を実施しました。(R1計5回実施)

2日 花山湖で清掃活動を実施



スマイルサポーターの花山漁業協同組合の皆さんをはじめ、花山青少年旅行村や栗原市花山総合支所の皆さんと一緒に、今年で11回目となる花山湖周辺の合同清掃活動を行いました。

10日 ダム堆砂土砂対策の先進地視察(岩手県)



花山ダム・栗駒ダムではH20の岩手・宮城内陸地震以降計画を上回る速度で堆砂が進行しており、早急な対策が必要であることから、堆砂対策事業を既に実施している岩手県の煙山ダムと入畑ダムの先進地視察を実施しました。

12日 ダム定期検査(小田ダム)



小田ダムにおいて、ダムの維持管理や流水管理が適切に行われているかを確認する定期検査(3年に1回実施)が行われました。

24日 出前講座(ダムの役割)を開催



近年頻発化している豪雨災害や、ダムの役割である洪水調節や異常洪水時防災操作等を理解して頂くため、出前講座を開催しました。

※R1開催 9回 274名出席

3日 地震時臨時点検演習を実施



地震発生時の点検・報告を円滑に実施するため、地震時点検演習を行い、点検項目や点検ルートの確認、点検記録報告様式の作成方法を学びました。

10日 洪水対応演習(情報伝達訓練)を実施



洪水期を迎えるにあたり、4ダムにおいて、洪水時における関係機関への通知、放流警報等の一般住民への周知、及び洪水調節操作等を適確に行うための管理演習を実施しました。

28日 小田ダム環境整備を実施



ダム機能の維持と環境美化を図るため、1年間を通して、清掃、除草、落葉除去、除雪等の職員直営による環境整備を行いました。
5月28日は小田ダムにおいて、堤体下流の除草作業を行いました。

17日 荒砥沢ダム見学案内



鶯沢小学校4年生と先生方21人が社会科の授業の一環として荒砥沢ダムを訪れました。ダムの役割を職員手作りによるダム模型等を使ってわかりやすく紹介を行い、後日子供達から感謝のメッセージをいただきました。

6~8日 出前講座を実施(栗原市自主防災組織)



旧町村ごと10箇所で開催された栗原市危機対策課主催の「自主防災組織代表者会議」においてダムの役割等について説明を行い、防災・減災に対する理解を深めて頂きました。
(10会場、200名出席)

12~13日 台風19号による洪水調節

〈花山ダム〉
総雨量 115.0mm
最大流入量 201.12m³/s
調節総量 3,500千m³
〈栗駒ダム〉
総雨量 177.0mm
最大流入量 173.99m³/s
調節総量 2,996千m³



※R1警戒配備 4ダム延べ19回(地震配備含む)
洪水調節実績:3ダム5回

22日 花山ダム湖でワカサギ釣り(ドーム船)開始

22日から花山ダム湖で、花山漁業協同組合が運営する宮城県内初となるワカサギ釣りドーム船の営業が始まりました。(予約制)



営業時間:8:00~16:00
営業期間:3月末まで
料金:大人3,000円/日
子供2,000円/日
(※来シーズンはR2.11月から営業予定)

(1) 事務所の動き

当所では、花山ダム、荒砥沢ダム及び小田ダムに、平成28年4月1日から土木部と農林水産部の共同管理に移行した栗駒ダムを加えた4つのダムを管理しており、日常的に施設点検や周辺環境整備を行っているが、各ダムとも耐用年数を超過した電気・機械設備が増加し、電気通信設備を中心に不具合の発生頻度が高くなっていることから、長寿命化計画に基づいた設備更新を計画的に実施して行く必要がある。

また、平成30年7月の西日本豪雨以降、ダム放流時の情報提供や、下流住民への情報提供のあり方が注目されていることから、「出前講座」を延べ10回開催し、ダムの役割である洪水調節や、近年話題となっている異常洪水時防災操作について説明を行い、防災・減災の啓蒙に取り組んでいる。

(2) 主要な取り組み

① 確実な洪水調節の実施と効率的な貯水池の運用

本年度は、当所管理4ダムで延べ19回の警戒配備にあたり、このうち3ダムで延べ5回の洪水調節を実施したほか、異常洪水時防災操作時に必要となる予測計算やゲート開度設定のトレース演習、融雪期に向けた超過洪水対応演習を適宜延べ5回実施するなど、職員の危機管理能力の向上に努めた。また、7月下旬の梅雨明け以降、連日猛暑が続いたため、8月中旬に渇水傾向が強まったが、気象情報からダムへの流入量を推測し、利水者と密に情報を共有しながら連日放流量の微調整を行った結果、かんがい用水や水道水の安定供給、並びに河川環境を保全することが出来た。

② 施設の適切な維持管理と周辺環境の保持

花山ダムについては、不具合が発生した堤体観測装置や通信障害が発生した留場観測局の水位計について修繕工事を実施し、管理設備の保全を図った。

県農政部と共同管理する荒砥沢ダムと小田ダムについては、突然不具合が発生したため、速やかに補修に必要な予算の確保を行い、荒砥沢ダム非常用発電設備修繕工事や小田ダム管理用制御処理設備の表示端末装置修繕工事を実施した。

栗駒ダムについては、流木の支障によりゲート操作不能となった取水設備について潜水土による支障物撤去作業を12月に実施し、管理施設の保全を図った。

③ 効果的なダム情報の提供と地域との協働

ホームページにより住民や利水者に貯水池状況などの情報を、毎週提供するとともに、4ダムで延べ13団体226人の見学者を受け入れ、職員自ら作成したダム模型や、パンフレット、ダムカードなどを活用し、目的や年齢に合わせた分かり易く丁寧な説明に努めた。また、スマイルサポーターの花山漁業協同組合などと連携して花山ダム湖周辺の環境整備を実施し、ダムの広報活動、地域住民との協働の充

実を図った。

④その他

平成30年7月の西日本豪雨等、近年多発する異常降雨を踏まえ、8月に栗原市危機対策課主催の「栗原市自主防災組織代表者会議」に同席し、各ダムの役割や運用方法、洪水調節の仕組みや効果、近年話題となっている異常洪水時防災操作などについて説明を行った。(旧町村ごと10会場延べ200人出席)

また、その席上で出前講座をPRしたところ、10月の台風19号に伴う豪雨災害以降関心が一気に高まったことに伴い、多数の受講希望があり、ダム下流域住民に対してもダムの役割や効果について説明を行い、地域における防災意識の醸成を促進することが出来た。(令和元年度:10会場延べ353名受講)

【ダム見学(荒砥沢ダム) R1.7.17】



【出前講座 R1.11.24】



(3) 9年目の課題

①ダム操作・管理技術者の経験不足への対応

年々、ダム管理に熟練した技術職員を確実に配置することが難しくなる中、異常気象、特に計画規模を超える場合や突発的な事象に備えるため、ダム操作訓練や研修により職員のスキルアップに努めるとともに、経験・知識・情報を目に見える形で蓄積するため、これまでの管理における各ダムのノウハウをまとめた「蓄積と伝承」の活用や、パソコン等で各ダムの管理マニュアルや対象施設の図面や写真を現場で確認しながら点検が実施可能となる「電子版マニュアル」を改善し、次年度以降活用を図っていく。

②ダム長寿命化計画に基づく施設の適切な維持管理

平成30年度に当所管理4ダムの長寿命化計画の策定が全て完了したことから、経年によるリスクを適時把握し、中長期的な施設の維持管理・更新について、具体的な進め方を検討するとともに、緊急時には必要な予算を確保出来るように関係機関と情報共有を図る。

また、総務省の「無線設備規則」改正に伴うダム無線設備の新スプリアス規格への対応についても、令和4年11月末まで確実に対策が完了出来るように、既に契

約を締結している花山・荒砥沢・小田ダムのほか、栗駒ダムについても令和 2 年度中の更新工事発注に向けて関係機関と連携して進めていく。

③地域における防災意識の醸成及び関係機関と連携した防災・減災への取組

近年、全国的に自然災害が多発・激甚化し、ダム管理者の対応のあり方が問われており、単に洪水調節を確実に行うだけでなく、下流域の減災に向けた一層の取り組みが期待されていることから、関係機関を交えた情報伝達訓練や洪水対応演習、関係市町とのホットライン、河川管理者、利水事業者、警察・消防等の所属職員へ、ダムの役割や効果、異常洪水時防災操作に関する説明を行い、理解の浸透を図る。

また、今年度は栗原市自主防災組織代表者会議に同席して、ダムの効果等を説明したことで、各地区の自主防災組織から地域住民に対する出前講座の申し込みが多数あったことから、来年度以降も引き続き働きかけを行うとともに、学校関係者にも広くPRを行い、出前講座の開催を推進することにより、地域における防災意識の醸成を促進する。

④異常堆積土砂によるダム機能の低下

岩手・宮城内陸地震以降、花山ダムでは計画を大幅に上回る傾向で堆砂が進んでおり、今回の台風 19 号でも土砂堆積の進行が懸念されるため現在、緊急的に堆砂測量を実施し、その影響を確認中である。

既に洪水調節容量等治水機能に影響が確認されている花山ダムにおいては、令和 2 年度に創設された「緊急浚渫推進事業」による堆積土砂撤去について、事業推進に向けた関係機関協議を実施している。

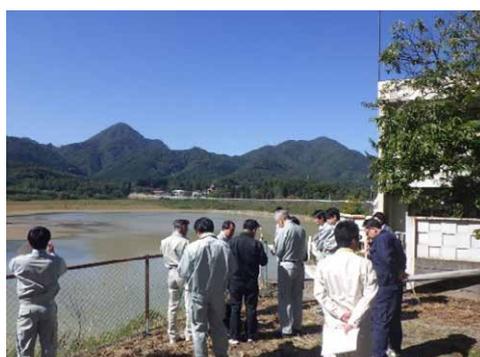
また、満砂状態にある栗駒ダムについては、農林水産部において平成 30 年度までに取水塔周辺の堆積土砂約 1.5 万 m³を撤去しているが、次期計画において抜本的な堆砂対策を検討していることから、早期事業着手に向け連携して調整を図っていく。

なお、令和元年度より、河川課と連携して民間活力(PFI/PPP)活用制度を利用した堆積土砂の有効活用について検討しており、国土交通省や県が主催する研修会に参加し、幅広い意見を聞きながら具体的な対策の検討を今後も継続していく。

【超過洪水対応演習 R1.6.17】



【堆積土砂 WG 先進地視察(岩手県)】

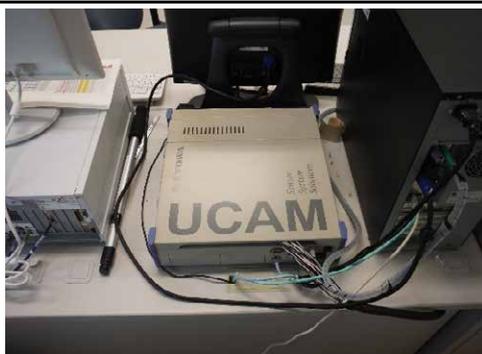


河川施設の再生・復興状況の写真



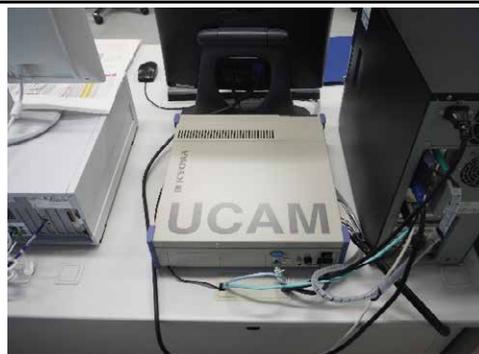
国土地理院の電子地形図に位置を追記して掲載 [地図データ](#)

着工前



① 花山ダム 栗原市花山字本沢向原 地内
堤体観測装置修繕工事 着手前

完成



① 令和元年8月
完成

着工前



② 花山ダム 栗原市築館字留場遠の木 地内
留場水位観測所水位計修繕工事 着手前

完成



② 令和元年11月
完成